

【研究ノート】

月報を読む(5) :

筑摩書房版世界文学全集 月報細目(前半)

(Browsing Inserted Leaflets (5):
Tables of Contents of those in Chikuma-Shobo Editions of
World Literature Volumes—the first half)

藤 井 哲* (編)

概要

すでに「筑摩書房版現代日本文学全集月報細目(1)~(3)」を『福岡大学人文論叢』第51巻2~4号(2019年9月~2020年3月)に発表している。1953~59年の『現代日本文学全集』で延べ1,300万冊を売り上げて名声を確立してきた「文学全集の筑摩」がこれまでに月報付きで発刊させた10種の現代日本文学全集に挿み込まれたすべての月報約740号分(使い回し分を除いて約500号分)を有効利用するためのツールとしてまとめあげた書誌であった。その執筆を経験するうちに記述上のスタイルがほぼ安定してきたので¹、今度は細目化の対象を同書房の世界文学全集の月報にも拡げる頃合いになったと思えてきた次第。

そもそも筆者が「月報」の存在を意識するようになった発端は、東京駅前に

* 福岡大学名誉教授

¹ 実際には、本誌第50巻4号(2019年3月)に投稿した「月報を読む：序論」から、月報にありがちな書誌的不明瞭さを解消しようとの試行錯誤は始まっていた。

ある八重洲ブックセンターの特設コーナーで偶々手にした『世界文学大系月報合本』（筑摩書房、1969）が1,288頁もあって、月報に対する筆者（藤井）の既成概念を改めさせられた経験であった。永江朗の『筑摩書房 それからの四十年』（同、2011、p. 140）によると、倒産直後に筑摩を支援する催事がその店であったらしいから、1978年秋頃のことであろう。いらい筑摩版世界文学全集の月報には新企画の度に関心を払っていたが、現代日本文学全集の場合同様に名称と仕様が様々に設定されていたため、背表紙の色や奥付を目安にするだけでは月報を取り違いかねない危なっかしさを経験的に感じてきた。それでこの際にそれらの月報を、今回の調査から得られたささやかな知見を加えて細目に整理しておこうと思う。

やはり現代日本文学の月報細目と同じく、本稿でも個人全集には手を上げないでおくことにし、伝記やノンフィクション作品を主軸に据えた全集類も対象から外すことにして、『筑摩書房図書総目録：1940-1990』（同、1991）を捲り、ネットのCiNiiで検索を重ねた結果、同書房による月報付き世界文学全集およびそれに準ずる作品集を7件まで拾い集めることができた。ということで、取り敢えず蒐集すべき月報は362号分になると見積もったのである。その全冊を揃えるための遣り繰りがドーパミンの分泌を大いに促してくれるのであるが、揃ってしまえば、あとは前稿での書式に照らしながらの執筆あるのみで、研究上の閃きや文筆の才は乏しくとも、じみな作業に掛ける時間には恵まれている筆者のような引退した研究者にも出番が回ってくることになる。

凡例

- 【全集】の各項では、『巻次 書名』、刊行年月、月報の罫、[合本の通しページ]、要注意巻、執筆者名、「記事名」、掲載ページを記述する。月報に号表示やノンブルが無ければ推定する。
- 要注意巻では月報が、⇒罫では復刊による合本、⇐罫では再編集（短縮）さ

- れていて要注意, また≠**罫**では添付が想定されていないことを示す.
- 巻次の表示では, 例えば【世界文学大系】の第1巻を【世文系1】のように略記した.
 - 和暦からの換算はストレスになるので, 原則として西暦年を用いた. なるべく資料の表示に沿うため, 洋数字と漢数字, 新字体と舊字體を混在させている. ルビは筆者(藤井)の判断で振ったものが多い. 一貫して敬称を省略させて頂いた.
 - 図版類すなわち写真・カット類や, 告知・広告・埋め草の類は原則として記述の対象にしなかった.
 - 月報の細目化が主目的なので, 本体巻の書名が『作品名』であってもその作者名や訳者名を付記することはない.

【世界文学大系】 68巻→96巻(100冊)+別巻2冊

1958年3月～69年7月. 【世文系】

※菊判上製函入(橙色の表紙). 購読予約を締め切った1958年4月時点では全68巻の予定であったが, 途中から96巻に増刊², 更に巻によっては分冊化され, 別巻として『世界文学序説』と『文学と人間像』が積み増されたので, 最終的には102冊の【世文系】になった. ※完結した翌々月の1969年9月に, 途中増巻に派生した「巻構成の不備を整理」して新しい巻次が振られ, 別巻を除外した全100巻編成の「愛蔵版. すなわち【愛世系】が黒色表紙と光沢仕様の函で再刊されて, 同年10月にその「新別巻. として既述の『月報合本』(1,288頁)が配本された(セット価97,000円). 月報は, 連載記事³の順序を乱さないように,

² 5年前に同書房が発刊した『現代日本文学全集』(1953～59)は全55巻予定であったが, 結果的には1,300万冊を売り上げる盛況で, 途中から全99巻に増巻されていた.

³ 全100回の「世界文学史」を呉茂一(希・羅), 野上素一(伊), 会田由(西), 杉捷夫・菅野昭正・清水徹(仏), 登張正実・吉田正己(独), 木村彰一(露), 平井正穂(英), 佐伯彰一(米)が執筆したが, 転載や単行本化の有無については未調査である.

元版の号順で合本化された。本稿でも合本の〔☐通し頁〕を併記しておく。
 ※なお 1971～98年に、【世文系】の改訂新版として藤色表紙の『筑摩世界文学大系』が全89巻(91冊)で刊行され直して、月報は新稿に改まった。その細目は【筑世系】として本稿の後半で記述される。※ややこしいのであるが、1976年には、【世文系】と『世界古典文学全集』(1964年刊行開始～2004年完結)つまり後述の【世古全】から『古典世界文学』が、【世文系】と【筑世系】からも『近代世界文学全集』が、それぞれ全35巻(セット価各77,000円)で新編成されており⁴、表紙や函が【世文系】と同デザインであっても、また同一書名であっても収録が元版とは多少異なっており、月報も付せられなかった。混同を招かないよう≠【古世文】〔無〕あるいは≠【近世文】〔無〕と表示して注意喚起をしておく。

- 〔1 ホメーロス〕 1961年12月 〔53〕〔☐pp. 669-684〕. ……………
 ……………⇒【愛世系1】〔☐〕≠【古世文1】〔無〕
 呉茂一・高津春繁・田中美知太郎・村川堅太郎「座談会 ホメーロスめぐる」
 1-10. 「訳者紹介」&「編集後記」10. [地図] 11. 杉捷夫「世界文学史52：十九世紀のフランス文学（その四）」12-16. 「ホメーロス研究書目・参考文献」16.
- 〔2 ギリシア・ローマ古典劇集〕 1959年6月 〔19〕〔☐245-260〕. ……⇒【愛世系2】〔☐〕
 中村光夫(司会)・高津春繁・田中美知太郎・三島由紀夫・呉茂一「座談会 ギリシア・ローマ劇めぐる」1-8. 「編集後記」&「訳者紹介」8. [地図] 9. 「研究書目・参考文献(ギリシア・ローマ古典劇集)」10-11. 「ANECDOTA」11. 杉捷夫「世界文学史19：十六世紀のフランス文学（その二）」12-16.
- 〔3 プラトン〕 1959年1月 〔12〕〔☐145-160〕. ……⇒【愛世系3】〔☐〕≠【古世文14】〔無〕
 高津春繁「プラトンの魅力」1-2. 岡田正三「プラトンはなぜ書いたか」3-4. 速水敬二「プラトニズムの或る理解」4-6. 栢田啓三郎「ヘレネの美を持つ哲学」6-7. 「研究書目・参考文献(プラトン)」8-11. 「ANECDOTA」11. 呉茂一「世界文学史12：中世」12-16. 「訳者紹介」&「編集後記」16.
- 〔4 インド集〕 1959年5月 〔17〕〔☐217-232〕. ……………⇒【愛世系7】〔☐〕

⁴ 経営難に迫られて資産を再利用したか。同書房は1978年7月に会社更生法の適用を申請することになった。

- 田中於菟弥(司会)・辻直四郎・岩本裕・土井久弥・チャテルジー夫人「座談会 インド文学を語る」1-8. 「編集後記」8. 「研究書目・参考文献(インド集)」9-10. 「訳者紹介」11. 会田由「世界文学史 17:《黄金世紀》のスペイン文学」12-16.
- 『5A 史記★』 1962年4月 56 [☐713-724]. ……⇒【愛世系9】☐.
橋川時雄「読物の『小竹史記』に思う」1-3. 貝塚茂樹「史記と私」4-6. 徳川夢声「永遠なるモノ」6-7. 「編集後記」&「訳者紹介」7. 「研究書目・参考文献(訳注, 研究・概説)」7-8. 杉捷夫「世界文学史 55: 十九世紀のフランス文学(その七)」9-12.
- 『5B 史記★★』 1962年7月 59 [☐737-748]. ……⇒【愛世系10】☐. ≠【古世文19】無.
水沢利忠「金沢をめぐる史記の先覚者たち」1-3. 田中謙二「史記における叙述形式: 特に史官の記録の扱いについて」4-5. 武田泰淳「小竹文夫先生のこと」5-6. 「我が国の史記研究の優位性: 史記古本とその資料」7-8. 「編集後記」8. 平井正徳「世界文学史 57: 十九世紀後半のイギリス文学(その二)」9-12&8.
- 『6 ダンテ』 1962年10月 62 [☐773-784]. ……⇒【愛世系20】☐. ≠【古世文28】無.
呉茂一「ダンテをめぐって」1-2. 北川冬彦「『神曲』の芸術性」2-4. 大類伸おおるい・のぶる「ダンテ六百年祭りの思い出」4-5. 岡本謙次郎「ブレークの「ダンテ『神曲』挿絵」」5-7. 「編集後記」&「訳者紹介」7. 「研究書目・参考文献」7. 平井正徳「世界文学史 60: 十九世紀後半のイギリス文学(その五)」8-12.
- 『7A 中国古典詩集★』 1961年6月 47 [☐593-604]. ……⇒【愛世系11】☐.
貝塚茂樹「詩経古訓」1-2. 白川静「揚之水三篇」2-4. 松本雅明「『君いまだ見えなば』」4-6. 小川環樹「楚辞の表現の神秘性」6-7. 「訳者紹介」&「編集後記」7. 「研究書目・参考文献(中国文学全般, 詩経, 楚辞)」8. 登張正実「世界文学史 46: 十九世紀前半のドイツ文学(その三)」9-12.
- 『7B 中国古典詩集★★』 1963年1月 65 [☐809-820]. ……⇒【愛世系12】☐.
前野直彬「詩と写真の話」1-2. 村上哲彬「毛沢東主席の詞」2-3. 入谷仙介いりたに・せんすけ「唐詩と盗作」3-5. 「訳者紹介」&「編集後記」5. 「世界文学大系未刊目録[増巻・追加作品を公表]」6-7. 「研究書目・参考文献(文学史, 唐詩, 宗詩)」7-8. 木村彰一「世界文学史 63: 十九世紀前半のロシア文学(その一)」9-12.
- 『8 チョーサー ラブレール』 1961年11月 52 [☐657-668]. ……⇒【愛世系21】☐. ≠【近世文1】無.
福原麟太郎「チョーサーの思い出」1-2. 厨川文夫くりやがわ「『カンタベリ物語』における話

- の役割」2-4. 渡辺一夫「フランソワ・ラブレーと僕」4-5. 小場瀬卓三「ラブレー賛」6-7. 「編集後記」&「訳者紹介」7. 佐伯彰一「世界文学史 51：十九世紀のアメリカ文学（その四）」8-12. 「チョーサー・ラブレー研究書目・参考文献」12.
- 『9A モンテーニュ★』 1962年1月 54 [⊕685-696].
 ⇨ 【愛世系 23】 ⊕. ≠ 【古世文 31】 無.
 河野與一「モンテーニュとプルータルコス」1-2. 河盛好蔵「モンテーニュをゆがめて」3-4. 堀秀彦「『随想録』を読みながら思うこと」4-6. 佐古純一郎「鎮魂のわざ」6-7. 杉捷夫「世界文学史 53：十九世紀のフランス文学（その五）」8-12. 「編集後記」&「訳者紹介」12.
- 『9B モンテーニュ★★』 1962年7月 60 [⊕749-760].
 ⇨ 【愛世系 24】 ⊕. ≠ 【古世文 32】 無.
 市原豊太「モンテーニュの特殊性と普遍性」1-2. 金沢誠「モンテーニュの周辺」2-3. 松浪信三郎「ク・セ・ジュ？」4-5. 串田孫一「落穂拾い あるいは 髪をむしられることについて」5-6. 「編集後記」6. 「モンテーニュ参考文献」7. 平井正徳「世界文学史 58：十九世紀後半のイギリス文学（その三）」8-11.
- 『10 セルバンテス★』 1960年8月 36 [⊕469-480].
 ⇨ 【愛世系 25】 ⊕. ≠ 【近世文 2】 無.
 安岡章太郎「とらえがたい滑稽」1-2. 海老池俊治^{しゅんじ}「イギリス小説と『ドン・キホーテ』」2-4. 荒正人「『ドン・キホーテ』とスペイン語」4-6. 新井正道「セルバンテスの像 セルバンテスの家」6-7. 「訳者紹介」7. 木村彰一「世界文学史 36：十七世紀後半から十八世紀六十年代までのロシア文学」8-12. 「編集後記」12.
- 『11 セルバンテス★★』 1962年12月 63 [⊕785-796].
 ⇨ 【愛世系 26】 ⊕. ≠ 【近世文 2】 無.
 長南実^{ちやうなん}「古典を読む」1-2. 大橋健三郎「『ドン・キホーテ』と会田さんとぼく」2-4. ジャン・カスウ/二宮敬(訳)「セルバンテスの特質」4-7. 「セルバンテス研究書目・参考文献」7. 吉田正己「世界文学史 61：十九世紀後半のドイツ文学（その一）」8-12. 「編集後記」12.
- 『12 シェイクスピア★』 1959年9月 22 [⊕289-300].
 ⇨ 【愛世系 27】 ⊕. ≠ 【近世文 3】 無.
 【続巻】：『75 シェイクスピア★★』.

- 西脇順三郎「シェイクスピアの笑い」1-2. 三神勲「喜劇の上演」2-4. 吉田健一「シェイクスピア」4-5. 坪内士行「日本でのシェイクスピアの上演」5-7. 「訳者紹介」&「編集後記」7. 「研究書目・参考文献(シェイクスピア)」8. 平井正穂「世界文学史22:十六世紀のイギリス文学(その三)」9-12.
- 『13 デカルト パスカル』 1958年10月 ⑧ [④89-100]. ……………⇒【愛世系31】④.
佐藤信衛「文体からみたパスカルとデカルト」1-3. 前田陽一「パスカル行脚」3-4.
矢内原伊作「デカルトと現代」5-6. 串田孫一「パスカルと灯火管制」6-7.
「ANECDOTA」7. 呉茂一「世界文学史8:ローマ文学」8-12. 「訳者紹介」12.
- 『14 古典劇集★』 1961年10月 ⑤ [④641-656]. ……………⇒【愛世系29】④.
【続巻】:『89 古典劇集★★』.
杉山誠(司会)・鈴木力衛・会田由・倉橋健・戸張智雄「座談会 ヨーロッパ演劇の黄金時代」1-10. 「研究書目・参考文献(エリザベス朝演劇総論, マーロウ, ジョンソン, スペイン, フランス古典劇総論, コルネイユ, モリエール, ラシーヌ, ドイツ)」11-12. 「訳者紹介」&「編集後記」12. 佐伯彰一「世界文学史50:十九世紀のアメリカ文学(その三)」13-16.
- 『15 デフォー スウィフト』 1959年6月 ⑩ [④233-244]. ……………⇒【愛世系32】④. ≠【近世文4】④.
福原麟太郎「デフォーとスウィフト」1-2. 堀大司「予言者たち」2-4. 杉浦明平「ロビンソン・クルーソーの生命」4-6. 村松剛「ベスト考」6-7. 「訳者紹介」&「編集後記」7. 「研究書目・参考文献(デフォー, スウィフト)」8. 「ANECDOTA」8. 杉捷夫「世界文学史18:十六世紀のフランス文学」9-12.
- 『16 モンテスキュー ヴォルテール デイドロ』 1960年3月 ⑩ [④389-400]. ……………⇒【愛世系34】④.
辰野隆「ヴォルテールのこと」1-2. 平岡昇「『カンディッド』について」2-4. 根岸国孝「べるしや風三題断:モンテスキューの文章についての訳者の補遺」4-5. 「編集後記」5. 「研究書目・参考文献(十八世紀フランス啓蒙文学・思想, モンテスキュー, ヴォルテール, デイドロ)」6-8. 「訳者紹介」8. 杉捷夫「世界文学史30:十八世紀のフランス文学(その一)」9-12.
- 『17 ルソー』 1964年4月 ⑦ [④961-972]. ……………⇒【愛世系35】④. ≠【古世文35】④.
串田孫一「蘆騷」1-2. 高橋安光「ルソーの矛盾と逆説」2-4. 岩崎力「ルソーとプ

- ルースト」4-6. 「研究書目・参考文献」6. 「訳者紹介」& 「編集後記」6. 登張正実「世界文学史75：二十世紀のドイツ文学（その一）」7-11.
- 『18 シラー』 1959年11月 24 [☐313-324]. ……⇒【愛世系38】☐.
 斎藤栄治「ゲーテとシラーとドストエフスキーと」1-2. 野島正城「シラーの性格」2-4. 内垣啓一「シラー劇演出さまざま」4-6. 「研究書目・参考文献（シラー）」7. 登張正実「世界文学史24：十七世紀のドイツ文学」8-12. 「編集後記」& 「訳者紹介」12.
- 『19 ゲーテ★』 1960年6月 34 [☐441-456]. ……⇒【愛世系36】☐. ≠【近世文6】☐.
 北通文^{みちふみ}「シュヴァイツァーのゲーテ論によせて」1-2. 国松孝二「ファウスト伝説のこと」2-4. 佐藤晃一「『偉大な詩人』ゲーテ」4-6. 千谷七郎^{ちたに}「『ファウスト』の封印」6-7. 「訳者紹介」7. 「研究書目・参考文献（ゲーテ2）」8-11. 登張正実「世界文学史34：十八世紀のドイツ文学（その三）」12-16.
- 『20 ゲーテ★★』 1958年11月 9 [☐101-116]. ……⇒【愛世系37】☐.
 浅井真男「ウィルヘルム・マイステルとのつきあい」1-3. 山下肇「マイステルをめぐる」3-5. 高坂正顕「ゲーテと哲学者たち」5-8. 「訳者紹介」& 「編集後記」8. 「ANECDOTA」8. 「研究書目・参考文献（ゲーテ1）」9-10. 「ゲーテ箴言抄 大山定一訳」11-12. 呉茂一「世界文学史9：古代世界より中世へ」13-16.
- 『21 スタンダール★』 1958年6月 4 [☐37-48]. ……⇒【愛世系41】☐. ≠【近世文7】☐.
 三島由紀夫「『アルマンズ』について」1-2. 生島遼一「スタンダールの女性像」2-4. 大江健三郎「『カストロニ』」4-5. 金沢誠「スタンダールの時代」6-7. 「訳者紹介」7. 呉茂一「世界文学史4」8-12. 「編集後記」12.
- 『22 スタンダール★★』 1960年5月 32 [☐417-428]. ……⇒【愛世系42】☐. ≠【近世文7】☐.
 ……⇒【愛世系42】☐. ≠【近世文7】☐.
 室井庸一「『恋愛論』の読者の特権」1-2. 江藤淳「『恋愛論』について」2-4. 小林正「『赤と黒』のクロノロジー」4-6. 「研究書目・参考文献（スタンダール）」7. 登張正実「世界文学史32：十八世紀のドイツ文学（その一）」8-12. 「訳者紹介」& 「編集後記」12.
- 『23 バルザック★』 1960年12月 41 [☐533-544]. ……⇒【愛世系43】☐. ≠【近世文8】☐.
 安土正夫「バルザックの死をめぐる」1-4. 信時潔「バルザック随感」4-5. 原政夫「バルザックの文体の魅力」5-7. 平井正穂「世界文学史41：十九世紀前半のイギリス文学（その二）」8-12. 「訳者紹介」& 「編集後記」12.

- 『24 バルザック★★』 1963年4月 68 [☐845-856]. ……⇒【愛世系44】☐.
本田喜代治「バルザックの神秘思想について：そのリアリズムとの関係」1-2. 原政夫「バルザックとコーヒー」2-5. 高山鉄夫「ロヴァンジュール文庫のこと」5-6. 「編集後記」6. 「研究書目・参考文献(単行本, 雑誌)」7-8. 「借金取り撃退法」8. 木村彰一「世界文学史66：十九世紀前半のロシア文学(その四)」9-12.
- 『25 シャトーブリアン ヴィニー ユゴー』 1961年9月 50 [☐629-640]……………⇒【愛世系45】☐.
とある
辻昶『『九三年』の情熱』1-2. 篠田浩一郎「シャトーブリアンの思い出」2-4. 林和夫「ヴィニーについて」4-5. 「研究書目・参考文献(フランス・ローマン派概説, シャトーブリアン, ヴィニー, ユゴー)」6-7. 佐伯彰一「世界文学史49：十九世紀のアメリカ文学(その二)」8-12. 「編集後記」&「訳者紹介」12.
- 『26 プーシキン レールモントフ』 1962年12月 64 [☐797-808]. ……⇒【愛世系47】☐.
岩間徹「プーシキンの時代」1-2. 池田健太郎『『オネーギン』愛誦句』2-3. 大塚明「ロシア音楽とプーシキン」4-5. 小田切秀雄「レルモントフの尽きない魅力」5-6&12. 「研究書目・参考文献:(プーシキン, レールモントフ)」7. 「訳者紹介」&「編集後記」7. 吉田正己「世界文学史62：十九世紀後半のドイツ文学(その二)」8-12.
- 『27 キルケゴール』 1961年3月 44 [☐569-580]. ……⇒【愛世系49】☐.
椎名麟三「キルケゴールと私」1-2. 大島康正「キルケゴールの時点」2-4. 飯島宗亨「コルサール事件について」4-5. 大谷愛人「キルケゴールとデンマーク語」5-6. 「研究書目・参考文献」7-8. 木村彰一「世界文学史44：十八世紀後半のロシア文学」9-12. 「訳者紹介」&「編集後記」12.
- 『28 オースティン ブロンテ』 1960年1月 27 [349-360]. ……⇒【愛世系50】☐. ≠【近世文11】罫.
近藤いね子「オースティンのこと」1-2. 大沢実「エミリー・ブロンテの世界」2-4. 海老池俊治「ジェイン・オースティン」4-7. 「研究書目・参考文献(オースティン, ブロンテ)」7. 「訳者紹介」7. 平井正穂「世界文学史27：十七世紀のイギリス文学」8-12. 「編集後記」12.
- 『29 ディケンズ』 1969年7月 102 [☐1277-1288]. ……⇒【愛世系51】☐.
吉田健一「ディケンズを読んだ記憶」1-2. 神川信彦「ディケンズとその時代」3-4.

- 小池滋「二つの「荒涼館」訪問記」5-7. 「研究書目・参考文献」7. 「訳者紹介」7.
木村彰一「世界文学史 100：二十世紀のロシア文学（その五）」8-12&7.
- 『30 ゴンチャロフ レスコフ』 1959年10月 23 [☐301-312]. ……⇒【愛世系 52】☐.
米川正夫「ゴンチャロフのこと」1-3. 金子幸彦「レスコフの復活」3-5. 北垣信行
「ロシア文学における「余計者」」5-6. 「研究書目・参考文献（ゴンチャロフ、レス
コフ）」7. 「訳者紹介」と「編集後記」7. 登張正実「世界文学史 23：十六世紀のド
イツ文学」8-12.
- 『31 ツルゲーネフ』 1962年4月 57 [☐725-736]. ……⇒【愛世系 53】☐.
小田切秀雄「日本文学におけるツルゲーネフ」1-3. 江口清「ツルゲーネフとメリ
メ」3-4. 佐々木彰「ツルゲーネフの幽愁」4-6. 「訳者紹介」6. 黒田辰男(訳)「ツ
ルゲーネフ芸術書簡」7-8. 「研究書目・参考文献」8. 平井正穂「世界文学史 56：
十九世紀後半のイギリス文学（その一）」9-12.
- 『32 メルヴィル』 1960年9月 37 [☐481-492]. ……⇒【愛世系 55】☐. #【近世文 13】☐.
篠田一士「『白鯨』讀」1-2. 佐伯彰一「メルヴィルとほく」2-4. 大橋健三郎「『モウ
ビ・ディク』の伝統」4-5. 並河亮「『モウビ・ディク』と現代」6-7. 「研究書目・
参考文献（メルヴィル）」7. 杉捷夫「世界文学史 37：十九世紀前半のフランス文学
（その一）」8-12. 「訳者紹介」と「編集後記」12.
- 『33 ポオ ボオドレル』 1959年7月 20 [☐261-276]. ……⇒【愛世系 56】☐. #【近世文 14】☐.
……………⇒【愛世系 56】☐. #【近世文 14】☐.
杉木喬「ポオについて」1-2. 佐藤朔「ボオドレリヤンの面影」2-4. 井上究一郎「ポ
オドレルとメリオン」4-6. 松室三郎「ポオとボオドレル」6-9. 「訳者紹介」と「編
集後記」9. 「研究書目・参考文献（ポオ、ボオドレル）」10-12. 平井正穂「世界
文学史 20：十六世紀のイギリス文学」13-16.
- 『34 フロバール』 1961年8月 49 [☐617-628]. ……⇒【愛世系 57】☐. #【近世文 17】☐.
稲垣達郎「フロバールの日本移入：一、二の断片」1-3. 江口清「フロバールをめぐる
女性たち」3-4. 平井照敏「『紋切型字典』のこと」5-6. 辰野隆「フロバールの苦
吟」6-7. 佐伯彰一「世界文学史 48：十九世紀のアメリカ文学（その一）」8-12. 「フ
ロバール研究書目・参考文献」12. 「編集後記」と「訳者紹介」12.
- 『35 ドストエフスキー★』 1958年3月 1 [☐1-12]. ……⇒【愛世系 58】☐. #【近世文 15】☐.
……………⇒【愛世系 58】☐. #【近世文 15】☐.

- 青野季吉「ドストエフスキーと日本文学」1-2. 米川正夫「ドストエフスキー芸術の本質」2-4. 唐木順三「ドストエフスキーと現代」4-5. 飯島正「ドストエフスキーと映画」5-6. 「研究書目・参考文献(ドストエフスキー1)」7. 呉茂一「世界文学史1」8-12. 「訳者紹介」&「編集後記」12.
- 『36A ドストエフスキー★★』 1960年6月 33 [429-440]. ……⇒【愛世系59】4. 壇谷雄高^{はにや・ゆたか}「大審問官の顔」1-3. 山下肇「ナショナリストの偉大さ」4-5. 高橋新吉「神の探求」5-7. 「訳者紹介」&「編集後記」7. 登張正実「世界文学史33: 十八世紀のドイツ文学(その二)」8-12.
- 『36B ドストエフスキー★★★』 1960年7月 35 [457-468]. ……⇒【愛世系60】4. 椎名麟三「矛盾の背後の光」1-2. 水上英広「ニーチェとドストエフスキー」2-4. 江川卓「四つの記念祭」4-5. 赤田豊治「ドストエフスキーの病氣」5-6. 「研究書目・参考文献(ドストエフスキー2)」7-8. 「訳者紹介」&「編集後記」8. 木村彰一「世界文学史35: 十六, 十七世紀のロシア文学」9-12.
- 『37 トルストイ★』 1958年8月 6 [63-74]. ……⇒【愛世系61】4. ≠【近世文16】無. 米川正夫「『アンナ・カレーニナ』について」1-3. 佐古純一郎「アンナの最後の祈り」3-5. 松田道雄「ロシアの人民」5-6. 「参考文献(トルストイ1)」7. 呉茂一「世界文学史6」8-12. 「訳者紹介」&「編集後記」12.
- 『38 トルストイ★★』 1959年12月 25 [325-336]. ……⇒【愛世系62】4. 荒正人「トルストイの歴史哲学」1-2. 佐伯彰一「青春小説『戦争と平和』」2-4. 本多秋五「クトゥーゾフ将軍について」4-8. 「訳者紹介」&「編集後記」8. 杉捷夫「世界文学史25: 十七世紀のフランス文学(その一)」9-12.
- 『39 トルストイ★★★』 1959年12月 26 [337-348]. ……⇒【愛世系63】4. 【続巻】: 『84 トルストイ★★★★』. 岩間徹「『戦争と平和』の歴史的背景」1-2. 大岡信「アウステルリッツの空」2-4. 真下信一「ヤースナ・バリャーナの思い出」4-5. 「編集後記」5. 「研究書目・参考文献(トルストイ2)」6-7. 杉捷夫「世界文学史26: 十七世紀のフランス文学(その二)」8-12.
- 『40 サッカレー ハーディ』 1961年1月 42 [545-556]. ……⇒【愛世系67】4. 上田勤「ハーディの思い出」1-2. 青木雄造「笑いの文学」2-4. 滝山季乃「ハーディの小説と詩」4-5. 「訳者紹介」&「編集後記」6. 「研究書目・参考文献(サッカレー,

- ハーディ) 6. 「世界文学大系目録 [改編後の収録予定作品]」 7-8. 平井正穂「世界文学史 42：十九世紀前半のイギリス文学 (その三)」 9-12.
- 〔41 ゴラ〕 1959年2月 13 [361-376]. ……⇒【愛世系 69】 36. #【近世文 18】 無.
河盛好蔵「ゴラとドレフェース事件」 1-2. 渡辺淳「ゴラの現代性」 3-4. 岡田真吉
「映画化されたゴラ」 4-5. 「研究書目・参考文献 (ゴラ)」 6-7. 「ANECDOTA」 7. 「訳
者紹介」 & 「編集後記」 7. 呉茂一「世界文学史 13：西欧・中世末よりルネサンスへ」
8-12.
- 〔42 ニーチェ〕 1960年2月 28 [361-376]. ……⇒【愛世系 70】 36.
芳賀檀「ニーチェについて：未来への意志」 1-2. 原佑^{たすく}「ニーチェ思想の究極のもの」
2-4. 生野幸吉「ニーチェの詩について」 4-8. 山本太郎「ニーチェと私」 8-9. 「編集
後記」 9. 「研究書目・参考文献 (ニーチェ)」 10-11. 「訳者紹介」 11. 平井正穂「世
界文学史 28：十七・八世紀のイギリス文学 (その二)」 12-16.
- 〔43 マラルメ ヴェルレーヌ ランボオ〕 1962年2月 55 [697-712]. ……
……………⇒【愛世系 71】 36.
佐藤正彰「鈴木博士のマラルメ」 1-2. 橋本一明「ヴェルレーヌの一読者の記録」
2-4. 平井正穂「ランボオ解釈について」 5-6. 「読【訳】者紹介」 6. ヴァレリー / 中
村光夫(訳)「ヴェルレーヌの通った道：Passage de Verlaine」 7-9. 杉捷夫「世界文
学史 54：十九世紀のフランス文学 (その六)」 10-13. 「編集後記」 13. 「翻訳目録 (マ
ラルメ, ヴェルレーヌ, ランボオ)」 14-15. 「研究書目・参考文献 (フランス象徴派,
マラルメ, ヴェルレーヌ, ランボオ)」 15-16.
- 〔44 モーパッサン〕 1958年9月 7 [75-88]. ……⇒【愛世系 72】 36. #【近世文 19】 無.
辰野隆「モーパッサン管言」 1-2. 上林暁^{かんばやし}「モーパッサンを読んだ記憶」 2-4. 杉捷
夫「モーパッサンの評価」 4-7. 瀬沼茂樹「モーパッサンと日本文学」 7-8. 「研究書
目・参考文献 (モーパッサン)」 9. 「ANECDOTA」 9. 呉茂一「世界文学史 7」 10-
14. 「訳者紹介」 14.
- 〔45 ジェイムズ〕 1963年7月 69 [857-868]. ……⇒【愛世系 74】 36.
西脇順三郎「ジェイムズ崇拜」 1-2. 行方昭夫^{なめかた}「モームの見たジェイムズ」 2-4. 細
入藤太郎「ジェイムズの主題と技法」 4-7. 「研究書目・参考文献」 7. 吉田正己「世
界文学史 67：十九世紀のドイツ文学 (その三)」 8-12. 「編集後記」 & 「訳者紹介」 12.
- 〔46 チェーホフ〕 1958年12月 10 [117-128]. ……⇒【愛世系 75】 36. #【近世文 21】 無.

- 廣津和郎「チェーホフから受けたもの」1-2. 佐々木基一「チェーホフ研究に望むもの」2-3. 岸輝子「わたしのチェーホフ」3-5. 「編集後記」5. 「『シベリヤの旅』参考地図」5. 「研究書目・参考文献(チェーホフ)」6-7. 「ANECDOTA」7. 呉茂一「世界文学史10:中世」8-12. 「訳者紹介」12.
- 『47 ロマン・ロラン★』 1958年4月 ② [Ⓐ13-24]. ……⇒【愛世系76】Ⓐ. #【近世文23】Ⓔ.
高田博厚^{ひろあつ}「孤独な精神の勇氣」1-4. 串田孫一「ロマン・ロランと音楽」4-5. 遠藤周作「ロマン・ロランの後輩」5-6. 尾崎喜八「車内の偶会」6-7. 「訳者紹介」7. 呉茂一「世界文学史2」8-12. 「研究書目・参考文献(ロマン・ロラン1)」12. 「編集後記」12.
- 『48 ロマン・ロラン★★』 1958年5月 ③ [Ⓐ25-36]. ……⇒【愛世系77】Ⓐ. #【近世文24】Ⓔ.
松尾邦之助「憎しみの興奮に抵抗する文学」1-3. 蛭原徳夫「『ジャン・クリストフ』の構造」3-4. 田中澄江「『ジャン・クリストフ』回想」4-6. 「訳者紹介」&「編集後記」6. 「研究書目・参考文献(ロマン・ロラン2)」7. 呉茂一「世界文学史3:ギリシア悲劇について」8-12.
- 『49 ゴーリキー』 1960年12月 ④ [Ⓐ521-532]. ……⇒【愛世系78】Ⓐ. #【近世文22】Ⓔ.
なかのしげはる[中野重治]「トルストイの家とゴーリキー博物館」1-2. 佐多稲子「ゴーリキーと湯浅さんについて」2-3. 黒田乙吉「大きなロシヤ人」4-5. 細川ちか子「『どん底』と共に」5-7. 「研究書目・参考文献(ゴーリキー)」7. 平井正穂「世界文学史40:十九世紀前半のイギリス文学(その一)」8-12. 「訳者紹介」&「編集後記」12.
- 『50 ジイド』 1963年9月 ⑦ [Ⓐ881-896]. ……⇒【愛世系79】Ⓐ.
松尾邦之助「ジイドの思い出など」1-2. 富士川英郎「『地の糧』の独訳」2-4. 菱山修三「ジイドの再認識」4-5. 松崎芳隆「『重い肉体』」5-7. C.アヴリーヌ/河盛好蔵(訳)「ジイド最後の言葉」7-9. 「研究書目・参考文献(単行本・講座、雑誌)」9-11. 吉田正己「世界文学史69:十九世紀後半のドイツ文学(その五)」12-16. 「訳者紹介」&「編集後記」16.
- 『51 クローデル ヴァレリー』 1960年11月 ③⑨ [Ⓐ505-520]. ……⇒【愛世系80】Ⓐ.
吉田健一「ヴァレリー頌」1-2. 井上究一郎「『海の墓地』をめぐって」2-5. 鈴木力

- 衛「クローデルとバロー」5-6. 清水徹「クローデルとヴァレリー」6-8. 「訳者紹介」&「編集後記」8. 「参考文献・研究書目(クローデル, ヴァレリー)」9-12. 杉捷夫「世界文学史39:十九世紀前半のフランス文学(その三)」13-16.
- 『52 プルースト』 1960年2月 29 [☐377-388]. ……⇒【愛世系81】☐.
白井浩司「プルーストと現代文学」1-2. 井上究一郎「ル・ロワールの春」3-5. 「研究書目・参考文献(プルースト)」6-7. 平井正穂「世界文学史29:十七・八世紀のイギリス文学(その三)」8-12. 「訳者紹介」と「編集後記」12.
- 『53 リルケ』 1959年3月 14 [☐173-184]. ……⇒【愛世系82】☐. ≠【近世文26】☐.
村野四郎「リルケについて」1-2. 藤原定「リルケ頌」2-4. 高安国世「リルケの跡をたずねて」4-6. 岸田矜子「リルケを聴く」6-7. 「訳者紹介」と「編集後記」7. 「研究書目・参考文献(リルケ)」8. 野上素一「世界文学史14:イタリアのルネサンス」9-12.
- 『54 トーマス・マン』 1959年8月 21 [☐277-288]. ……⇒【愛世系83】☐. ≠【近世文27】☐.
さねよし・はやお
実吉捷郎「マンとわが青春」1-2. 松田智雄「『魔の山』における生活形式」2-4. 登張正実「『魔の山』のおもい出」4-5. 森川俊夫「文学と政治」6-7. 「訳者紹介」と「編集後記」7. 「研究書目・参考文献(トーマス・マン)」8. 平井正穂「世界文学史21:十六世紀のイギリス文学(その二)」9-12.
- 『55 ヘッセ カロッサ』 1958年12月 11 [☐129-144]. ……⇒【愛世系84】☐.
片山敏彦「ヘッセとカロッサ」1-2. 高橋健二「ヘッセとカロッサの印象」2-4. 田宮虎彦「孤独の内側と外側」4-5. 佐野利勝「癒すものとしての文学」5-7. 「訳者紹介」7. 「研究書目・参考文献(ヘッセ, カロッサ)」8-9. 「ANECDOTA」9. 呉茂一「世界文学史11:中世」10-14. 「編集後記」14. ヘルマン・ヘッセ/西義之(訳)「世界文学をどう読むか」15-16.
- 『56 ロレンス ハックスリ』 1959年4月 16 [☐201-216]. ……⇒【愛世系85】☐.
上田勤「オルガス・ハックスリのこと」1-2. 南博「ロレンス覚え書」3-5. 篠田一士「ロレンスの旅行記」5-6. 丸谷オ一「ハックスリの系譜」7-8. 「編集後記」8. スペンダー/村上至孝(訳)「ロレンス論」9. 「研究書目・参考文献(ハックスリ, ロレンス)」10. 「ANECDOTA」11. あいだ・ゆう 会田由「世界文学史16:中世末からルネサンスまでのスペイン文学」12-16. 「訳者紹介」16.

- 『57 ジョイス ウルフ エリオット』 1960年10月 38 [493-504]. …⇒【愛世系86】
安藤一郎「ウルフ管見」1-2. 丸谷オ一「ルーアンから『荒地』へ」3-4. 安田章一郎
「エリオットの文化論」5-6. 「訳者紹介」&「編集後記」6. 「研究書目・参考文献(ジョ
イス, ウルフ, エリオット)」7-8. 杉捷夫「世界文学史38:十九世紀前半のフラン
ス文学(その二)」9-12.
- 『58 カフカ』 1960年4月 31 [401-416]. …⇒【愛世系87】 ≠【近世文29】
小島信夫「カフカについて」1-2. 辻理^{ひかる}「鍵の魅力」3-5. 開高健「チェコのカフカ」
5-7. 清水徹「夢の世界と文学的空間:モーリス・ブランショのカフカ論を中心に」
7-9. 「研究書目・参考文献(カフカ)」10. 杉捷夫「世界文学史31:十八世紀のフ
ランス文学(その二)」11-16. 「訳者紹介」&「編集後記」16.
- 『59 デュアメル モーリアック マルロオ』 1961年4月 45 [581-592]. …⇒【愛世系88】
J. ロゲンドルフ「フランソワ・モーリアックの秘密」1-2. 二宮敬「デュアメル再発
見」2-4. 小松妙子「ふだん着のマルロオ」4-6. 「訳者紹介」&「編集後記」6. 「研
究書目・参考文献(デュアメル, モーリアック, マルロー)」7-8. 登張正実「世界
文学史45:十九世紀前半のドイツ文学(その二)」9-12.
- 『60 モーム グリーン』 1961年7月 48 [605-616]. …⇒【愛世系89】
西川正身「ある日のモーム」1-2. 植草甚一「グリーンのヴィジョン」2-4. 野崎孝
「エピグラフのある世界」4-5. 菅泰男^{すが}「劇作家としてのモームとグリーン」5-6. 「研
究書目・参考文献(モーム, グリーン)」7. 佐伯彰一「世界文学史47:十七, 八世
紀のアメリカ文学」8-11. 「訳者紹介」&「編集後記」12. 「モームは語る」12.
- 『61 フォークナー ヘミングウェイ』 1959年4月 15 [185-200]. …⇒【愛世系90】
谷口睦男「失われた世代の特質と作家たち」1-2. 大橋健三郎「危機に対処する文学」
2-4. 西川正身「フォークナーの地を求めて」4-6. 遠藤周作「フォークナー感想」
6-7. 「ANECDOTA」8. 「訳者紹介」&「編集後記」8. 「研究書目・参考文献(フォ
ークナー, ヘミングウェイ)」9-10. 野上素一「世界文学史15:イタリアのルネサンス」
11-15. 「武器よさらば・参考図」16.
- 『62 魯迅 茅盾』 1958年7月 5 [49-62]. …⇒【愛世系92】
宇野浩二「魯迅の事」1-3. 伊藤信吉「断片的な回想から」3-5. 岡崎俊夫「魯迅と
茅盾」5-6. 石母田正^{いしもた}「このごろ思っていること」6-7. 呉茂一「世界文学史5」

- 8-12. 「編集後記」12. 「研究書目・参考文献(魯迅, 茅盾)」13. 「訳者紹介」14. 「脱
 険雑記 地名の発音および英語綴の表」14. 「『脱険雑記』参考地図 [図版]」14.
- 『63 ギリシア思想家集』 1965年9月 92 [図1153-1164]. ……⇒【愛世系4】
 藤井義夫「贖金づくり」1-3. 川田殖「思想の原形」3-4. 久保正彰「石を食うかた
 つむり」4-5. 「参考文献」5. 佐伯彰一「世界文学史90: 二十世紀のアメリカ文学
 (その一)」6-11. 「編集後記」&「訳者紹介」11.
- 『64 古代文学集』 1961年2月 43 [図557-568]. ……⇒【愛世系6】
 松平千秋「ギリシア小説の読者へ」1-2. 佐々木理「ロンゴスと神話」2-4. 花田清
 輝「『さちゅりこん』の作者について」4-5. 中村真一郎「ギリシア小説と王朝小説」
 6-7. 「訳者紹介」&「編集後記」7. 「研究書目・参考文献(ギリシア, ラテン)」8. 「古
 代文学集」関係地図」8. 登張正実「世界文学史43: 十九世紀前半のドイツ文学(そ
 の一)」9-12.
- 『65 中世文学集★』 1962年9月 61 [図761-772]. ……⇒【愛世系16】
 有永弘人「古い文学と私たち」1-2. 佐藤正彰「ヴィヨンと近代詩」2-4. 鈴木力衛
 「渡辺一夫先生と『パトラン先生』とわたくし」4-5. 淀野隆三「邦訳『サン・ヌー
 ヴェル・ヌーヴェル』の思い出」5-6. 「研究書目・参考文献(中世文学, 思想, ロー
 ランの歌, 狐物語, ヴィヨン, 結婚十五の歓び, サン・ヌーヴェル・ヌーヴェル,
 ピエール・パトラン先生)」7-8. 「訳者紹介」&「編集後記」8. 平井正穂「世界文学
 史59: 十九世紀後半のイギリス文学(その四)」9-12&6.
- 『66 中世文学集★★』 1966年9月 99 [図1237-1252]. ……⇒【愛世系17】
 浜川祥枝「中世の食習慣」1-2. 池上忠広「最後の中世ロマンス」3-4. 荒正人「中
 世文学展望」5-8. 「訳者紹介」9. 「研究書目・参考文献」9. 木村彰一「世界文学史
 97: 二十世紀のロシア文学(その二)」10-15. 「編集後記」15. 「『アーサーの死』参
 考図」16.
- 『67 ローマ文学集』 1966年2月 95 [図1189-1200]. ……⇒【愛世系5】
 岩崎良三「ホラティウスとオウィディウスの影響」1-3. 井上忠「キケローとオウィ
 デウス」3-5. 引地正俊^{ひきち}「『黄金の驢馬』と魔女」5-6. 佐伯彰一「世界文学史93:
 二十世紀のアメリカ文学(その四)」7-12. 「ローマ文学集・参考文献」12. 「訳者紹
 介」&「編集後記」12.
- 『68 アラビア・ペルシア集』 1964年8月 81 [図1013-1028]. ……⇒【愛世系19】

- 伴康哉「ハリリー『マカーマート』について」1-5. 小高正直「アラビア文学随想」5-6. 加賀寛寛「近,現代のペルシア文学」6-8. 「訳者紹介」&「編集後記」8. 「研究書目・参考文献(アラビア, ペルシア)」&「翻訳(アラビア, ペルシア)」9. 登張正実「世界文学史 79: 二十世紀のドイツ文学(その五)」10-15.
- 『69 論語 孟子 大学 中庸』 1968年3月 ㊦ [㊦1265-1276]. ……⇒【愛世系8】㊦.
吉川幸次郎「『論語』入門」1-3. 片山哲「倉石論語を読むことを勧める」3-4. 西順蔵「妄読」5-6. 「編集後記」6. 「参考文献(総論, 論語, 孟子, 大学・中庸)」7. 「訳者紹介」7. 木村彰一「世界文学史 99: 二十世紀のロシア文学(その四)」8-12.
- 『70 文選』 1963年12月 ㊦ [㊦925-936]. ……⇒【愛世系13】㊦.
神田喜一郎「新しい文選学」1-2. 網^{あみ}祐次「文選にちなんで」2-4. 小尾郊一「寛文板の文選」4-5. 高橋和巳「詞華集の意味」5-6. 「研究書目・参考文献」7. 「訳者紹介」&「編集後記」7. 木村彰一「世界文学史 72: 十九世紀後半のロシア文学(その三)」8-12.
- 『71 中国古小説集』 1964年12月 ㊦ [㊦1065-1080]. ……⇒【愛世系14】㊦.
小南^{こみなみ}一郎「志怪小説の成立と『搜神記』」1-2. 興膳宏「『世説新語』の群像」2-4. 清水茂「発見と急転」4-6. 「世界文学大系既刊—中国古典文学関係のものを挙げる」7. 「研究書目・参考文献(搜神記, 世説新語, 唐宗小説)」8-9. 菅野^{かんの}昭正「世界文学史 83: 二十世紀のフランス文学(その四)」10-15.
- 『72 中国散文選』 1965年8月 ㊦ [㊦1141-1152]. ……⇒【愛世系15】㊦.
金谷治「漢文のおもしろさ」1-2. 前野直彬「文筆の弁」2-4. 松枝茂夫「唐宗八家その他」4-5. 「研究書目・参考文献(総記, 翻訳, 論文)」6. 平井正穂「世界文学史 89: 二十世紀のイギリス文学(その五)」7-12. 「訳者紹介」12.
- 『73 千一夜物語』 1964年1月 ㊦ [㊦937-948]. ……⇒【愛世系18】㊦.
吉田健一「『千夜一夜』の世界」1-2. 前嶋信次「アラビアン・ナイトの内と外」2-4. 井上究一郎「『千夜一夜』とブルースト」4-5. 大場正史「初期の邦訳『アラビアン・ナイト』」5-7. 「研究書目・参考文献(単行本, 新聞雑誌論文)」7. 木村彰一「世界文学史 72[73]: 十九世紀後半のロシア文学(その四)」8-12. 「訳者紹介」&「編集後記」12.
- 『74 ルネサンス文学集』 1964年10月 ㊦ [㊦1041-1052]. ……⇒【愛世系22】㊦.
会田雄次「ルネサンスをどう考えるか」1-2. 西村貞二「カルヴァンとカステリヨン」

24. 小池滋「現代に生きるピカロ」4-5. 清水徹「世界文学史 81：二十世紀のフランス文学（その二）」6-11. 「訳者紹介」と「編集後記」11. 「ルネサンス文学集・参考文献」12.

『75 シェイクスピア★★』 1965年3月 87 [⊕1093-1104]. ……⇒【愛世系 28】⊕.
【前巻】：『12 シェイクスピア★』.

鈴木建三「ポローニアスの目」1-2. 磯田光一「即興精神について：シェイクスピアとモダン・ジャズ」3-4. 喜志^{きし}哲雄「あるシェイクスピア俳優のノート」4-6. 「口絵および月報の図版について」6. 平井正穂「世界文学史 85：二十世紀のイギリス文学（その一）」7-12. 「訳者紹介」と「編集後記」12.

『76 リチャードソン スターン』 1966年6月 97 [⊕1213-1224]. ……⇒【愛世系 33】⊕. ≠【近世文 5】⊖.
中野好夫「朱牟田君、おめでとう」1-2. 松村達雄「スターンのおかしみ」2-4. 榎本太「リチャードソン小説の意識」4-5. 中村真一郎「十八世紀の小説」5-7. 「編集後記」と「訳者紹介」7. 「研究書目・参考文献（十八世紀イギリス小説、リチャードソン、スターン）」7. 佐伯彰一「世界文学史 95：二十世紀のアメリカ文学（その六）」8-12.

『77 ドイツ＝ロマン派集』 1963年11月 73 [⊕909-924]. ……⇒【愛世系 39】⊕.
橋川文三「ロマン的な断片」1-2. 今井寛「ヘルダーリンとジンクレア」2-4. 阪本越郎「ノヴァーリスの詩と死の理念について」4-5. 石丸静雄「ホフマンとドレーズデン」5-7. F. シュレーゲル / 飯田安(訳)「断片」7-8. 「研究書目・参考文献（ドイツ＝ロマン派総論、ヘルダーリン、クライスト、ジャン・パウエル、ノヴァーリス、アイヒェンドルフ、ホフマン、シュライエルマッヘル）」8-11. 木村彰一「世界文学史 71：十九世紀後半のロシア文学（その二）」12-16. 「訳者紹介」と「編集後記」16.

『78 ハイネ』 1964年5月 78 [⊕973-988]. ……⇒【愛世系 40】⊕.
望月市恵「ハイネとゲーテ」1-2. 許^{きよ・なんき}南麒「ハイネ雑感」2-4. 中野重治「あなうめ草」4-6. トーマス・マン / 井上正蔵(訳)「ハイネに関するノート」6. アルノルト・ツワイク / 井上正蔵(訳)「ハイネ断章」6-7. 田岡嶺雲「ハインリヒ・ハイネ(抄)」7-8. 萩原朔太郎「ハイネの嘆き(抄)」8-9. 「研究書目・参考文献（概要）」9-11. 登張正実「世界文学史 76：二十世紀のドイツ文学（その二）」12-16. 「訳者紹介」と「編集後記」16.

- 『79 メーリケ ケラー』 1964年12月 84 [☐1053-1064]. ……⇒【愛世系 46】☐.
富士川英郎「メーリケ寸感」1-2. 伊藤武雄「現代のケラー像」2-4. 登張正実「生
と精神」4-5. 「訳者紹介」&「編集後記」5. 「研究書目・参考文献(メーリケ, ケラー)」
6. 清水徹「世界文学史 82 : 二十世紀のフランス文学 (その三)」7-12.
- 『80 ゴーゴリ』 1963年8月 70 [☐869-880]. ……⇒【愛世系 48】☐.
庄野潤三「ゴーゴリ」1-2. 除村^{よけむら}吉太郎「ゴーゴリとベリンスキー」2-4. 杉山誠
「ゴーゴリの『検察官』」4-5. 今村与志雄「魯迅とゴーゴリ」5-7. 「研究書目・参
考文献(単行本, 雑誌)」7. 吉田正己「世界文学史 68 : 十九世紀後半のドイツ文学 (そ
の四)」8-12. 「訳者紹介」&「編集後記」12.
- 『81 ホーソン マーク・トウェイン』 1966年7月 98 [☐1225-1236]. ……
……………⇒【愛世系 54】☐. ≠【近世文 12】☐.
酒本雅之「超絶主義の裏側 : ホーソンの「あざ」をめぐる」1-2. 亀井俊介「ア
メリカのいたずらっ子たちとハック・フィン」3-4. 後藤昭次「ヨーロッパとアメリ
カ」5-6. 「研究書目・参考文献」6. 木村彰一「世界文学史 96 : 二十世紀のロシア
文学 (その一)」7-12. 「編集後記」&「訳者紹介」12.
- 『82 ゲルツェン★』 1964年2月 76 [☐949-960]. ……⇒【愛世系 65】☐.
河盛好蔵「メモワールなど」1-2. 外川継男「チャダーエフと哲学書簡」2-4. 今井
義夫「グラノフスキイの歴史講義をめぐる」4-6. 藤井一行「ベリンスキーの劇作」
6-7. 「研究書目・参考文献」7. 木村彰一「世界文学史 74 : 十九世紀後半のロシア
文学 (その五)」8-12. 「訳者紹介」&「編集後記」12.
- 『83 ゲルツェン★★』 1966年5月 96 [☐1201-1212]. ……⇒【愛世系 66】☐.
勝田吉太郎「ゲルツェンと現代」1-2. 新村猛「ゲルツェンとロマン・ロラン」2-4.
石山正三「『自然研究書簡』について」4-5. 萩原直「ゲルツェンとハンガリー」
6-7. 「編集後記」7. 佐伯彰一「世界文学史 94 : 二十世紀のアメリカ文学 (その五)」
8-12.
- 『84 トルストイ★★★★』 1964年6月 79 [☐989-1000]. ……⇒【愛世系 64】☐.
【前巻】: 『39 トルストイ★★★★』.
瀬沼茂樹「トルストイと森鷗外」1-2. 菊村到「求道者のまなざし」2-4. 金子幸彦
「ブルガーコフとその日記」4-6. 池田健太郎「『クロイツェル・ソナタ』と作者の
「あとがき」」6-7. 「訳者紹介」&「編集後記」7. 登張正実「世界文学史 77 : 二十

紀のドイツ文学 (その三) 8-12.

- 〔85 ジョージ・エリオット〕 1965年12月 94 [☐1177-1188]. …⇒【愛世系 68】☐.
海老池俊治「ジョージ・エリオットの移植」1-2. 川本静子『『フロス河の水車場』あれこれ』3-4. 米田一彦「エリオット小説の位置」4-6. 「研究書目・参考文献」6. 佐伯彰一「世界文学史 92: 二十世紀のアメリカ文学 (その三)」7-12. 「訳者紹介」& 「編集後記」12.
- 〔86 コンラッド〕 1967年12月 100 [☐1253-1264]. …⇒【愛世系 73】☐.
増田義郎「コンラッドと西欧」1-3. 渥美昭夫「コンラッドにおける「自然」と文体」3-5. 井内雄四郎「コンラッドと現代小説」5-7. 「訳者紹介」& 「参考文献」& 「編集後記」7. 木村彰一「世界文学史 98: 二十世紀のロシア文学 (その三)」8-12&7.
- 〔87 ドス・パソス スタインベック〕 1963年2月 66 [☐821-832]. …⇒【愛世系 91】☐.
大橋吉之輔「スタインベックのこと」1-2. 橋本福夫「ドス・パソスのルポルタージュ」2-3. 福田陸太郎「フランスにおけるドス・パソスとスタインベック」3-5. 中田耕治「もう一つの展望」5-7. 「『北緯四十二度線』初版ニュース映画七 [図版]」5. 「このスタインベックのサインは… [無題]」6. 「訳者紹介」7. 「研究書目・参考文献」7. 木村彰一「世界文学史 64: 十九世紀前半のロシア文学 (その二)」8-12.
- 〔88 サルトル〕 1963年4月 67 [☐833-844]. …⇒【愛世系 93】☐.
桑木務「サルトルの根っこ」1-2. 清水徹『『自由への道』以後: サルトルのロマンの課題』2-4. 開高健「サルトル会見記」4-5. 高島正明「サルトルとカミュ」5-6. 「研究書目・参考文献」7. 木村彰一「世界文学史 65: 十九世紀前半のロシア文学 (その三)」8-12. 「訳者紹介」& 「編集後記」12.
- 〔89 古典劇集★★〕 1963年10月 72 [☐897-908]. …⇒【愛世系 30】☐.
【前巻】: 『14 古典劇集★』.
平井正穂「錯乱の美学」1-2. 戸張智雄「『クラシック』ということ」2-4. M. グルリット「私のオペラ作曲」4-5. 鈴木力衛「フランスで上演された『あわれ彼女は娼婦』をめぐって」5-6. 「研究書目・参考文献」7. 「訳者紹介」& 「編集後記」7. 木村彰一「世界文学史 70: 十九世紀後半のロシア文学 (その一)」8-12. 「訂正」12.
- 〔90 近代劇集〕 1965年6月 90 [☐1129-1140]. …⇒【愛世系 94】☐.
茨木憲「外国劇と日本劇」1-2. 米川良夫「小説家ピランデルロと劇作家ピランデル

- ロ」2-4. 荒川哲生「オニールについて」4-5. 平井正穂「世界文学史 88 : 二十世紀のイギリス文学 (その四)」6-11. 「訳者紹介」& 「編集後記」12.
- 『91 近代小説集★』 1964年9月 ㊦ [㊦1029-1040]. ……⇒【愛世系 96】㊦.
工藤好美「ペイターとワイルド」1-2. 野島正城「独白体の短篇『グストル少尉』」
2-3. 江口清「メリメと女性についてのノート」4-5. 「編集後記」& 「訳者紹介」5.
菅野昭正「世界文学史 80 : 二十世紀のフランス文学 (その一)」6-11.
- 『92 近代小説集★★』 1964年7月 ㊦ [㊦1001-1012]. ……⇒【愛世系 97】㊦.
前川祐一「E. M. フォースター『小説の諸相』について」1-2. 川村二郎「ムシルと
プロッホ」2-4. 飯島耕一「プルトンについての一言」4-5. 谷口睦男「アメリカの
憂鬱」5-6. 登張正実「世界文学史 78 : 二十世紀のドイツ文学 (その四)」7-11. 「編
集後記」& 「訳者紹介」11.
- 『93 近代小説集★★★』 1965年1月 ㊦ [㊦1081-1092]. ……⇒【愛世系 98】㊦.
中村融「新旧ロシア文学の接点：コロレンコのこと」1-2. 桑木務「ケラヴオリ夫人
のことども」2-4. 鼓直「^{つづみ・ただし}バローハの理解のために」4-5. 「訳者紹介」5. 菅野昭正・
清水徹「世界文学史 84 : 二十世紀のフランス文学 (その五)」6-12. 「編集後記」12.
- 『94 現代小説集』 1965年4月 ㊦ [㊦1105-1116]. ……⇒【愛世系 99】㊦.
三輪秀彦「小説の減脂療法について」1-2. 福田実「叛逆から詩的真實へ」2-4. 横
田瑞穂「『人間の運命』について」4-5&12. 平井正穂「世界文学史 86 : 二十世紀の
イギリス文学 (その二)」6-11. 「訳者紹介」11. 「編集後記」12.
- 『95 現代劇集』 1965年5月 ㊦ [㊦1117-1128]. ……⇒【愛世系 95】㊦.
小宮曠三「プレヒトの魅力」1-2. 黒川欣映「^{よして}演劇における対立という概念」2-4.
篠沢秀夫「前衛とパリの舞台」4-5. 平井正穂「世界文学史 87 : 二十世紀のイギ
リス文学 (その三)」6-11. 「編集後記」& 「訳者紹介」11.
- 『96 文學論集』 1965年11月 ㊦ [㊦1165-1176]. ……⇒【愛世系 100】㊦.
篠田一士「批評のよろこび」1-2. 福田宏年「二元論的思考について」2-4. 新谷敬
三郎「ドストエフスキの『思想』」4-5. 「編集後記」5-6. 「訳者紹介」6. 佐伯彰
一「世界文学史 91 : 二十世紀のアメリカ文学 (その二)」7-12.

『別巻1 世界文学序説 アルベール・ゲラルール』 1961年5月 46 [[愛世系]から除外されて、46にも収録されなかった]。…………… ≠ 【79世系別Ⅱ】⁵ 無。
佐伯彰一「『世界文学』とアメリカ」1-2. 山本健吉「西洋文学と日本文学」2-3. 山下肇「童話の国の思い出」3-5. 丸谷オ一「読者であること」5-6. 「訳者紹介」と「編集後記」6. 「世界文学略年表」7-12.

『別巻2 文学と人間像 J. B. プリーストリ』 1962年6月 58 [[愛世系]から除外されたため46に収録されず]。…………… ≠ 【79世系別Ⅰ】⁶ 無。
阿部知二・大島康正「対談 西方と東方の人間像」1-8. 「編集後記」と「訳者紹介」8. 「世界文学大系目録」[42]で発表の過渡的改編目録を詳細化] 9-16.

【世界ユーモア文学全集】 15巻+別巻3冊

1960年12月～63年8月。【世ユ全】

※四六判上製函入。飯沢匡・植田敏郎・河盛好藏・獅子文六・西川正身（編）。
※筆者（藤井）は偶々全冊セットを所蔵していたが、文庫判を背伸びさせたサイズの月報は、後述する『世界人生論全集』の場合同様に、行方不明になりやすかったであろう。※挿み込みの広告には「現代ユーモア小説の傑作を集めた笑いの国際見本市」との惹句も見られるが、紀田順一郎は、「日本ではユーモアといえば駄洒落やくすぐり、さては下がかった笑いを連想する傾向がある。ユーモア全集は何度出ても一定以上の部数にいたらない…」と指摘した。筑摩書房は『現代ユウモア全集』を全12→15→24巻と増巻させることで、かつて1928～30年に『現代ユウモア全集』で20万圓の利益を上げて経営的基盤を固めた小学館の実績にあやかろうとしたかもしれない。⁶ ※【世ユ全】は1977～78年にも全10巻に改編されたが、1978年に倒産することになった筑摩書房には月報をサービスするだけの余裕を持てなかったようである。

⁵ 後述する『筑摩世界文学大系』が未だ完結しない1979年に、月報無し79冊のセット【79世系】が販売され、その際に【世文系】本来の別巻2冊も復活した。

⁶ 紀田『内容見本にみる出版昭和史』（本の雑誌社、1992）pp. 239-240. 鈴木省三『わが出版回顧録』（柏書房、1986）に「大成功の『現代ユーモア全集』」（pp. 53-56）あり。

- 『1 山賊株式会社社長 ジョージア・ボーイ』 1960年12月 ①.
乾信一郎「ユーモア談義」2-4. 田岡典夫「電話」4-5. 淀川長治「映画に匂うユーモア」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『2 おやじ天下 ニペンスの切手 がめつい野郎 条件つき貸間』 1961年1月 ②.
安藤鶴夫「ユーモアのある会話」2-4. 三浦朱門「偽電話とユーモア」4-6. 長新太「コレデイインダロウカ」と思ったころ」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『3 雪の中の三人男 陽気な騎兵隊』 1961年2月 ③.
渡辺紳一郎「ある「横文字使い」の場合」2-4. 植田敏郎「ケストナーの印象」4-6. 永六輔「あなたもするくせに…」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『4 マリナー氏ご紹介 マルタン君物語』 1961年3月 ④.
宇野信夫「面白い人」2-4. 開高健「旅のこぼれ話」4-6. 玉川一郎「南方での話」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『5 当世人気男 わが夢の女』 1961年4月 ⑤.
佐藤亮一(訳編)「あちらの小ばなし集」2-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『6 十二の椅子』 1961年5月 ⑥.
飯沢匡「馬鹿すぎた原作者」2-4. 曾野綾子「私の中米ドライブ」4-6. 星新一「ユーモアとテレビと残酷さ」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『7 わたしの妹アイリーン ドン・カミロの小さな世界』 1961年6月 ⑦.
会田由(訳編)「スペイン小ばなし集」2-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『8 おれは駆けだし投手 泣き笑い人生』 1961年7月 ⑧.
鈴木力衛「ユーモアと笑い」2-4. 鹿島孝二「新しい眼を」4-6. 都筑道夫「ユーモア推理小説についての対話」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『9 西部旅行綺談 ガス屋クニッテル』 1961年8月 ⑨.
市川五郎「ソビエトのユーモア」2-4. てるおか・やすたか「近代落語の成立」4-5. 谷川俊太郎「詩におけるユーモア」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『10 エッフェル塔の潜水夫』 1961年9月 ⑩.
小島亮一「こわい車掌」2-4. 三田洋二「北欧人と運転」4-6. 辻豊「同志セルゲエフ君の笑い」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『11 ボートの三人男 盗まれた機密文書 うわさ 運命』 1961年10月 ⑪.
田辺貞之助「エスプリの世界」2-3. 浜田義一郎「江戸文芸者のユーモリスト」4-5.

- 春山行夫「ユーモアの歴史」6-8. 「訳者紹介」&「編集室より」8.
- 『12 パパにはかなわない 現代ロシア短編集』 1961年11月 12].
佐伯彰一「アメリカの「ほら話」」2-4. 池田弥三郎「やがて悲しき」4-6. 平井泰太郎「「パパにはかなわない」のモデル」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『13 トッパー氏の冒険 ムルケ博士の沈黙集』 1962年1月 14].
山屋三郎「アメリカのユーモア」2-3. 山崎功「イタリア人のユーモア」4-6. 杉森久英「ユーモア文学あれこれ」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『14 兵士シュベイクの冒険（上）』 1962年6月 16].
「「シュベイクのつかまったレストラン」のメニューの表紙 [図版]」1. 井出弘子「シュベイクは今も愛されている」2-3. 古川洋三「キャバレー「御嶽」」4-6. 和田芳恵「江戸小咄の庶民生活」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『15 兵士シュベイクの冒険（下）』 1963年8月 18].
「『兵士シュベイクの冒険』の原典初版第二冊の表紙…[図版]」1. 栗栖継「カフカとハシェク」2-4. 「『兵士シュベイクの冒険』案内[登場人物のモデルの写真]」5. 「『兵士シュベイクの冒険』を執筆当時のハシェク[写真]」6. オルドジフ・ゼメク/中村猛(訳)「ヤロスラフ・ハシェクの思い出」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『別巻 [1] フランス小咄大全』 河盛好蔵(訳編) 1961年12月 13].
奥野信太郎「中国の笑話小咄」2-4. 司馬遼太郎「小説とユーモア」4-6. 早川東三「ドイツ的ユーモア」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『別巻 [2] アメリカほら話』 井上一夫(訳編) 1962年5月 15]. 【付記】:1985年に追加された『アメリカほら話 Part II』の巻には月報が付けられなかった。
伊吹武彦「パリの乞食たち」2-4. 中村武志「サラリーマンとユーモア」4-6. 加太こうじ「落語のホラ」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.
- 『別巻 3 につぼん小咄大全』 浜田義一郎(訳編) 1962年7月 17].
大和勇三「世界パントマイム旅行」2-4. 丸岡明「卵は地球の何処ででも立つ」4-6. 真山恵介「天然と加工と」6-8. 「訳者紹介」&「編集室だより」8.

【世界人生論全集】 16 卷 + 別巻 1 冊 1962 年 9 月 ~ 64 年 4 月。【世人全】

※小B6判上製。河盛好藏・手塚富雄・西川正身・福原麟太郎・藤井義夫(編)。
※`人生論、とは書名からして何とも地味ではあるが、堀秀彦が⑫で提示した「偉大な古典をよむことは、日々の人生を正直に考えながら生きること」との定立を踏まえれば、本全集では`偉大な古典、の集成が意図されたとの解釈も成り立とう。※但し、規模の割には嗜好みの作品選択だったせいか部数が捌けなかったようで⁷、今日古書市場で17巻の揃物を見ることは少ない。残存する本体が少ないうえに、文庫判が背伸びしたサイズで8頁の月報は容易に上製本から滑り落ちそうで、本体巻を取り寄せても空籤を引かされることが多い。図書館に頼ろうにも、ほぼ同サイズの広告と重なった月報は見落とされたりしてOPACでは探し出しにくい。※堀の「古典は生きている」は彼の『古典への招待』(新潮社、1963)に第12回までが転載されている(pp.153-211)。

『1 古代中世篇Ⅰ』 1963年3月 ⑦.

村川堅太郎「永遠の財宝」2-4. 藤田健治「ギリシアの叡智：世界人生論全集第一巻によせて」4-6. 堀秀彦「古典は生きている(7) ジェフレイ・チョーサー：『カンタベリ物語』について」6-8. 「訳者紹介」8.

『2 古代中世篇Ⅱ』 1963年10月 ⑫.

西脇順三郎「ローマの賢人道德」2-4. 呉茂一「トゥスクルムの丘を訪ねて」4-6. 堀秀彦「古典は生きている(12) 古典について教える古典：アーノルド・ベネット『文学趣味』」6-8. 「訳者紹介」8.

『3 古代中世篇Ⅲ』 1964年1月 ⑮.

速水敬二「中世哲学について」2-4. 藤井義夫「PHILANTHROPIAについて」4-6. 堀秀彦「古典は生きている(15) ラブレイ『ガルガンチュワ物語』：巨大ということ」6-8. 「訳者紹介」8.

『4 英米篇Ⅰ』 1963年11月 ⑬.

⁷ それでも【世人全14】⑫によると、初回配本の『11 フランス篇Ⅳ』は「忽ち売り切れ…特に若き読者層の絶大のご支持と予想を上廻る反響…」があったらしい。なお【世文系9B】⑩の広告欄には、「まず西洋の部を集大成して」とあり、売れ行き次第では東洋の部も日の目を見ていたかもしれない。

佐山栄太郎「実人生の基盤に立つ知的探求」2-4. 大山俊一「『魅惑の鏡』はこわれた：十七世紀の思想と感覚」4-6. 堀秀彦「古典は生きている(13) キルケゴール『反復』はこんなことを考えさせる」6-8. 「訳者紹介」8.

『5 英米篇Ⅱ』 1963年5月 [8].

海老池俊治「十八世紀の随筆」2-3. 安藤一郎「フランクリン私見」4-5. 堀秀彦「古典は生きている(8) ホメーロス『オデュッセイア』をよんで」6-8. 「訳者紹介」& 「編集室より」8.

『6 英米篇Ⅲ』 1963年7月 [10].

福原麟太郎「岡倉先生とラム」2-4. 串田孫一「ホイットマンの『自選日記』」4-6. 堀秀彦「古典は生きている(10) プラトンの対話篇をよんで」6-8. 「訳者紹介」8.

『7 英米篇Ⅳ』 1962年12月 [4].

瀬沼茂樹「ロレンスの手紙」2-4. 西川正身「アメリカ人と閑暇」4-6. 堀秀彦「古典は生きている(4) G. K. チェスタトンの『^{オールドキセイ}正統思想』について」6-8. 「訳者紹介」8.

『8 フランス篇Ⅰ』 1963年2月 [6].

J. ロゲンドルフ「近代人のジレンマ」2-4. 埴谷雄高「モンテーニュとパスカル」4-6. 堀秀彦「古典は生きている(6) 『アベラールとエロイズ』：愛と修道の手紙」6-8. 「訳者紹介」8.

『9 フランス篇Ⅱ』 1963年12月 [14].

福原麟太郎「イギリスのモラリスト文学」2-4. 渡辺一夫「ラ・ローシュフーコーの『箴言集』」4-6. 堀秀彦「古典は生きている(14) ファーブル『昆虫記』と人生」6-8. 「訳者紹介」8.

『10 フランス篇Ⅲ』 1963年1月 [5].

小場瀬卓三「フランスの祭壽の一世紀」2-4. 平岡昇「三人の悪い教師」4-6. 堀秀彦「古典は生きている(5) ポエティウス『哲学の慰め』をよんで思うこと」6-8. 「訳者紹介」8.

『11 フランス篇Ⅳ』 1962年9月 [1].

大島康正「幸福の再発見を！」2-3. 渡辺一夫「老残の記」4-6. 堀秀彦「古典は生きている(1) ルソー『エミール』を読み直しながら」6-8. 「訳者紹介」8.

『12 ドイツ篇Ⅰ』 1963年6月 [9].

浅井真男「人生の哲学と人生の智慧」2-3. 佐藤晃一「わたしの人生論的思考の故郷」

- 3-6. 堀秀彦「古典は生きている(9) ショーペンハウエル『パレルガ・ウント・パ
ラリボメナ』(『補遺と註解』)にことよせて」6-8. 「訳者紹介」&「原著者紹介」8.
- 『13 ドイツ篇Ⅱ』 1963年8月 ⑪.
高橋義孝「人生論雑感」2-3. 斎藤忍随「あやしみて人はおもふな」4-5. 堀秀彦「古
典は生きている(11) ルソー『孤独な散歩者の夢想』」6-8. 「訳者紹介」8.
- 『14 ドイツ篇Ⅲ』 1962年10月 ⑫.
山室静「シェウイツァー断想」2-4. 会津伸「ヘッセの死の前後」4-6. 堀秀彦「古
典は生きている(2) トマス・ア・ケンピス「キリストにならいて」と人生論」6-8.
「訳者紹介」&「編集室より」8.
- 『15 ロシア篇』 1962年11月 ⑬.
荒正人「『聖書』をよく読むということについて」2-4. 吉田健一「『チェーホフの手
帖』」4-5. 堀秀彦「古典は生きている(3)『プルターク英雄伝』をすすめる」5-8. 「訳
者紹介」8.
- 『16 キルケゴール』 1964年4月 ⑭.
高坂正顕「キルケゴールの真理について：ヤスペルスの思い出に触れながら」
2-4. 赤岩崇「キルケゴール」4-6. 堀秀彦「古典は生きている(16) 古典のなかの「自
伝」」6-8. 「訳者紹介」8.
- 『別巻 翼を持った言葉』 大島康正(編) 1964年3月 ⑮.

【世界古典文学全集】 50巻 (54冊)

1964年3月～2004年5月. 【世古全】

※菊判上製函入(鳶色の函と表紙). ヨーロッパのみならず中国～インド～ギ
リシアに及ぶ広義の文学, すなわち歴史・宗教・哲学を含む18世紀まで三千
年に亘る古典を集大成する. ※『17老子・莊子』, 『24B, 24C 三国志Ⅱ, Ⅲ』, 『30A,
30B 韓愈Ⅰ, Ⅱ』を残す49冊を刊行したところで, 第二次募集が1981年4月に
なされ, 当初予定の54冊は2004年5月に完結した. ※第二次募集用の内容見
本を見ると, 「巻数順に配本いたしますので, 月報は再編集します. すなわち

連載等を割愛し、テキスト・参考文献をできるだけ補訂いたします。」と、特筆すべき告知がある。つまり上述した1981年時点の未刊分と、既刊巻の1981年以降の重刷では、月報が原則8頁に揃えられることになる。したがって、月報が再編集されたと思いき巻については≡【81世古】と表示はするものの、本稿では細目化の対象に含めなかった。⁸ ※それ以前の1976年にも筑摩書房は、【世文系】および【世古全】の既刊分から35巻に再編成した『古典世界文学全集』を、【世文系】と同じ橙色の表紙と同デザインの函（定価表示を欠く）にして販売（セット価各77,000円）しており、そこでは同一書名であっても収録に多少の変更が見られ月報も省かれたので≠【古世文】^無と表示した。※連載記事のうち、清水茂の『中国目録学』（筑摩書房、1991）が「中国目録学」全10回を転載する（pp. 1-84）。松浦憲著作『カタルシス：近代文学における人間嫌ひの文体』（同学社、1980）が「クルチウス『ヨーロッパ文学とラテン中世』をめぐって」全6回を転載している（pp. 125-161）。

- 『1 ホメーロス』 1964年3月 ①. …… ≡【81世古1】 ①. ≠【古世文1】^無. 吉田健一「ホメロス」1-2. 澤村大五郎「オデュッセウス航路」2-5. 村田^{かずのすけ}数之亮「シリマンとトロヤ」5-7. 篠田一士「『ミメジス』を読むために(1)——『オデュッセウス』の傷」7-11. 「テキスト・参考文献」11. 「ホメーロス引用句集」11-12. 「訳者紹介」12.
- 『2 詩経国風 書経』 1969年4月 ③7. …… ≡【81世古2】 ②. ≠【古世文2】^無. 鈴木修次「詩経・書経の伝統」1-3. 白川静「周南卷耳について」3-5. 吉田恵「書経」と酒」5-7. 「書経・参考文献」7-8. 「『詩経国風』引用句集」8. 「『書経』引用句集」8-9. 「訳者紹介」9. 清水茂「中国目録学（9）：輯佚の学」9-12. 「編集部から」12.
- 『3 ヴェーダ アヴェスター』 1967年1月 ③1. …… ≡【81世古3】 ③. ≠【古世文3】^無. 足利^{あつじ}惇氏「インド・イランの世界」1-3. 原実「インドの聖典」3-5. 風間喜代三「ゾロアスターと西欧」6-8. 「筑摩書房刊・インド関係書籍」8. 清水茂「中国目録学（3）：紙の発明と卷子本」9-11. 「訳者紹介」11. 「『アヴェスター』正誤表」第44巻挿み

⁸ 【世古全】月報54冊のうち20冊で照合した限りでは、【81世古】版において連載は削除され、引用句集や参考文献表あるいは埋め草で字数調整が行われたくらいで、新たに執筆された記事は見られなかった。但し、連載無し12頁の月報【世古全15】③9と【世古全34】④0がどう【81世古】用に再編集されたかは未確認。

込み別紙.

- 『4 論語』 1971年1月 43. …… ≡ [81 世古4] 4. ≠ 【古世文4】無.
藤堂明保「孔子の造反」1-3. 戸川芳郎「雑記:「子罕言利」のこと」3-6. 小南一郎「孔子と隠者たち」6-7. 「『論語』引用句集」8-9. 「訳者紹介」&「編集部から」9. 松浦憲作「クルチウス『ヨーロッパ文学とラテン中世』をめぐって(3):自由学科」10-12.
- 『5 聖書』 1965年8月 18. …… ≡ [81 世古5] 5. ≠ 【古世文5】無.
山室静「聖書雑感」1-3. 羽仁説子「聖書と私」3-5. 内田芳明「旧約聖書の世界史的意義」5-7. 「編者紹介」7. 木下順治(編)「原典・参考文献(聖書の原典, 聖書の諸訳, 参考文献)」7-8.
- 『6 仏典Ⅰ』 1966年5月 25. …… ≡ [81 世古6] 6. ≠ 【古世文6】無.
田中於菟弥「インドにおける仏教文学」1-2. 石田瑞麿「師弟の情誼」2-5. 高崎直道「如是我聞(よぜがもん)」5-7. 「訳者紹介」7. 「口絵について」7. 奈良康明(編)「原典・参考文献(仏典一般, 仏伝, パーリ語經典, 梵語・仏教梵語經典)」8-9. 高津春繁「西洋古典文献学(7):古典の復活二」10-12.
- 『7 仏典Ⅱ』 1965年7月 17. …… ≡ [81 世古7] 7. ≠ 【古世文7】無.
渡辺照宏「仏典の現代語訳について」1-3. 増谷文雄「現代と仏教」3-5. 山田無文「ブッダにかえれ」6-7. 「訳者紹介」&「編集部から」8.
- 『8 アISKYロス ソボクレス』 1964年9月 7. …… ≡ [81 世古8] 8. ≠ 【古世文8】無.
新聞良三「ギリシア劇の舞台」1-3. 仁戸田六三郎「ギリシア悲劇によせて」3-6. 中村善也「アISKYロスの「思想」について」6-7. 篠田一士「『ミメジス』を読むために(7)——ローラン対ガヌロン(その三)」8-10. 「訳者紹介」11. 「アISKYロス・ソボクレス引用句集」11-12. 「テキスト・参考文献」12.
- 『9 エウリピデス』 1965年1月 11. …… ≡ [81 世古9] 9. ≠ 【古世文9】無.
信時潔「映画「エレクトラ」のことなど」1-3. 太田秀通「エウリピデス」3-5. 田村徹夫「「ヘラクレス」の上演から」5-8. 篠田一士「『ミメジス』を読むために(11)——アダムとエヴァ(一)」8-10. 「訳者紹介」10-11. 「エウリピデス引用句集」11-12. 「テキスト・参考文献」12.
- 『10 ヘロドトス』 1967年7月 33. …… ≡ [81 世古10] 12. ≠ 【古世文10】無.
村田数之亮「ヘロドトスの面白さ」1-3. 神山四郎「歴史するところ」3-5. 竹部

- 琳昌^{りんしょう}「ストリュモンからテルモピュライまで」5-8. 「訳者紹介」8. 「ヘロドトス引用句集」8-9. 清水茂「中国目録学(5):印刷術の発明」9-12. 「編集部から」12.
- 『11 トゥーキュディデース』 1971年1月 ④2. … ≡【81世古11】⑬. ≠【古世文11】無.
青木巖「トゥキュディデス雑感」1-3. 久保正彰「情報伝播とトゥキュディデス」3-6. 斎藤忍随^{じんずい}「戯作者と歴史家」6-8. 「訳者紹介」8. 「参考文献」8-9. 松浦憲作「クルティウス『ヨーロッパ文学とラテン中世』をめぐって(2):ラテン中世」10-12&9.
- 『12 アリストパネス』 1964年5月 ③. … ≡【81世古12】⑭. ≠【古世文12】無.
遠藤周作「喜劇としての「女の平和」」1-2. 竹部琳昌「ギリシア喜劇の講義から」2-4. 三浦一郎「アリストパネス喜劇の反響」5-7. 篠田一士「『ミメジス』を読むために(3)——「ペテルス・ワルホメレスの逮捕」」7-10. 「訳者紹介」10. 「アリストパネス引用句集」11-12. 「編集後記」12. 「テキスト・参考文献」12.
- 『13 春秋左氏伝』 1970年11月 ④1. … ≡【81世古13】⑮. ≠【古世文13】無.
小倉芳彦「吾レ龍門ニ在リ矣」1-3. 竹内照夫「『左伝』の女たち」3-5. 林巳奈夫^{みなお}「春秋車戦の武器」5-7. 「編訳者紹介」7. 「『春秋左氏伝』引用句集」8-9. 永田英正(編)「参考文献」9. 松浦憲作「『ヨーロッパ文学とラテン中世』をめぐって(1):ヨーロッパ文学」10-12.
- 『14 プラトンⅠ』 1964年8月 ⑥. … ≡【81世古14】⑯. ≠【古世文14】無.
串田孫一「プラトンのおもしろさ」1-2. 野田又夫「プラトンと近世哲学」2-5. 戸塚七郎「ニーチェとプラトン」5-7. 篠田一士「『ミメジス』を読むために(6)——ローラン対ガスロン(その二)」7-9. 藤沢令夫^{のりお}(編)「テキスト・翻訳」10-11. 「プラトン引用句集」12. 「訳者紹介」12.
- 『15 プラトンⅡ』 1970年2月 ③9. … ≡【81世古15】⑰. ≠【古世文15】無.
鹿野治助^{かの・じすけ}「『ポリテイア』で思うこと」1-3. 斎藤忍随^{じんずい}「幾度もソクラテスの名を」3-5. 伊藤貞夫「プラトンの社会的分業論」5-7. 「訳者紹介」7. 藤沢令夫(編)「参考文献」8-9. 「編集部から」9. 松本克己「私の西洋古典:オウィディウスの『転身譜』——詩人の意図」10-12.
- 『16 アリストテレス』 1966年8月 ②7. … ≡【81世古16】⑱. ≠【古世文16】無.
中村一彦「アリストテレスへのいざない」1-3. 当津武彦^{とうづ}「『詩学』の評価をめぐって」3-5. 藤井義夫「『アリストテレスの体系』とポイエーシス」5-7. 「訳者紹介」

7. 高津春繁「西洋古典文献学(9): 古典の北漸, エラスムス 一」8-10. 藤沢令夫(編)「テキスト・参考文献」10-12.
- 『17 老子 莊子』 2004年5月 54. …………… = 【81世古17】 54.
加島祥造「玄の話」1-3. 中務哲郎「『莊子』に寄せる西洋古典的注釈」3-4. 蜂屋邦夫「老子と莊子」4-6. 神塚淑子「莊子と道教と福永先生」6-8. 青山剛一郎(編)「参考文献」8-9. 「戦国時代要図」10. 「訳者紹介」と「編集部から」10.
- 『18 大学 中庸 孟子』 1971年3月 44. …………… = 【81世古18】 19. ≠ 【古世文17】 無.
本田済わたる「『大学』について」1-3. 木全徳雄きまた「孟子と現代」3-5. 伊藤計「遊説家としての孟子像」5-7. 伊藤計(編)「『大学』『中庸』『孟子』引用句集」7-9. 伊藤計(編)「参考文献」10-12. 「訳者紹介」と「編集部から」12. 松浦憲作「クルチウス『ヨーロッパ文学とラテン中世』をめぐって(4): トボス論」13-15. 「全巻内容 [既刊144巻]」16.
- 『19 諸子百家』 1965年10月 19. …………… = 【81世古19】 20. ≠ 【古世文18】 無.
赤塚忠「諸子百家について」1-3. 平岡武夫「諸子百家の役割」3-4. 湯浅幸孫「逸題」4-6. 高津春繁「西洋古典文献学(1)」6-8. 福永光司(編)「参考文献(諸子一般, 荀子, 管子, 韓非子, 墨子, 孫子)」9-10. 「訳者紹介」10. 「諸子百家引用句集」10-12.
- 『20 史記列伝』 1969年9月 38. …………… = 【81世古20】 21. ≠ 【古世文19】 無.
杉浦明平「乱世と平和時代」1-2. 入谷仙介いりたに・せんすけ「滝川博士と松江」3-5. 今鷹真「連続の史観と断絶の史観」5-7. 「参考文献」7-8. 清水茂「中国目録学(10): 校勘学の発達」9-12. 「編集部から」12.
- 『21 ウェルギリウス ルクレティウス』 1965年6月 15. ……………
…………… = 【81世古21】 22. ≠ 【古世文20】 無.
泉井久之助「マントヴァのウェルギリウス」1-3. 秀村欣二「アエネアス伝承についての覚え書」3-5. 平田寛「ルクレティウスの周辺と伝統」5-8. 篠田一士「『ミメジス』を読むために(15)——ファリナータとカヴァルカンテ(二)」8-10. 「ウェルギリウス・ルクレティウス引用句集」10-11. 「訳者紹介」12. 「テキスト・参考文献」12.
- 『22 タキトゥス』 1965年7月 16. …………… = 【81世古22】 23. ≠ 【古世文21】 無.
泉井久之助「セゴビアのローマ水道橋」1-3. 近山金次「タキトゥス『年代記』」3-5. 吉村忠典ただすけ「ローマ史随想」5-7. 「参考文献」7. 「訳者紹介」7. 篠田一士「『ミ

- メジス』を読むために(16)——ファリナータとカヴァルカンテ (三)」8-10. 「タキトウス引用句集」10-12.
- 『23 プルタルコス』 1966年10月 29. …………… ≡【81世古23】24. ≠【古世文22】無.
河野與一「プルタークの寫本を眺めた話」1-2. 大原総一郎「歴史理解のために」
3-4. 斎藤忍随^{じんずい}「獅子の仔」5-6. 「訳者紹介」7. 「プルタルコス引用句集」7-9. 清水
茂「中国目録学(1):書物の誕生」10-12.
- 『24A 三国志Ⅰ』 1977年7月 49. …………… ≡【81世古24A】10.
野田又夫「演義三国志」1-3. 本田済「悪人曹操」4-6. 吉川忠夫「裴松之のこと」
6-8. 「編集部から」8.
- 『24B 三国志Ⅱ』 1982年2月 50. …………… =【81世古24B】11.
桑原武夫「『三国志』をよむ」1-3. 大林太良「倭人の航海能力」3-4. 雜喉潤^{まごう}「干禁^{うきん}
伝」に思う」4-6. 吉川忠夫「裴松之のこと(二)」6-8. 「訳者紹介」8.
- 『24C 三国志Ⅲ』 1989年4月 53. …………… =【81世古24C】53.
佐伯富「劉備と荊州」1-3. 西嶋定生「夷洲と日本」3-5. 吉川忠夫「裴松之のこと
(三)」5-8. 今鷹真(編)「参考文献」8. 「編集部から」8.
- 『25 陶淵明 文心雕龍』 1968年12月 36. …………… ≡【81世古25】25. ≠【古世文23】無.
中谷孝雄「わが陶淵明」1-3. 田中克己「陶淵明を好いた人」3-4. 横山弘「彼此の間」
5-6. 「訳者紹介」6. 清水茂「中国目録学(8):類書の編さん」7-9. 「編集部から」10.
- 『26 アウグスティヌス ポエティウス』 1966年7月 26. …………… ≡【81世古26】26. ≠【古世文24】無.
近山金次「アウグスティヌス」1-3. 中川秀恭「時と永遠:アウグスティヌス『告白』
における時間論」3-6. 渡辺秀「アウグスティヌスとポエティウスと中世の学問」
6-8. 「アウグスティヌス・ポエティウス引用句集」8-9. 「参考文献(中世思想一般,
アウグスティヌス)」9. 高津春繁「西洋古典文献学(8):古典の復活 三」10-12.
「訳者紹介」12.
- 『27 李白』 1972年4月 45. …………… ≡【81世古27】27. ≠【古世文25】無.
多田道太郎「武部利男と中里介山」1-3. 入谷仙介^{いりたに・せんすけ}「李白の詩の背景」3-5. 笈久美
子「まじめだった李白」5-7. 「李白引用句集」8. 武部利男(編)「参考文献」9. 「訳
者紹介」&「編集部から」9. 松浦憲作「クルチウス『ヨーロッパ文学とラテン中世』
をめぐって(5):古典主義とマニエリスム」10-12.

- 『28 杜甫Ⅰ』 1967年11月 34. …………… ≡【81世古28】28. ≠【古世文26】無。
中野重治「わが杜甫のすべて」1-3. 土岐善麿「『杜老真詩自晩年』: 吉川博士畢生の
大業を待望して」3-5. 黒川洋一「杜甫における李白」5-7. 「訳者紹介」7. 「杜甫引
用句集」7-8. 清水茂「中国目録学(6): 刊本の時代」9-12. 「編集部から」12.
- 『29 杜甫Ⅱ』 1972年8月 45[46]. …………… ≡【81世古29】29. ≠【古世文27】無。
斎藤勇「杜詩雑感」1-3. 村上哲見「杜甫の酒歴とその詩」3-6. 御牧克己「『小説社
会』」6-8. 「杜甫引用句集」8-9. 「編集部から」9. 松浦憲作「クルチウス『ヨーロッ
パ文学とラテン中世』をめぐって(6): ダンテ」10-12.
- 『30A 韓愈Ⅰ』 1986年6月 51. …………… =【81世古30A】51。
前野直彬「韓愈という人」1-2. 川合康三「韓退之の冒険: 「画記」をめぐって」
2-4. 笈文生「中国における韓愈評価をめぐって(一)」4-8. 「訳者紹介」&「編集部
から」8.
- 『30B 韓愈Ⅱ』 1987年10月 52. …………… =【81世古30B】52。
松浦友久「韓愈のリズム: 詩・散文・散文詩」1-3. 林田慎之助「韓愈と吉川幸次郎
先生」3-5. 笈文生「中国における韓愈評価をめぐって(二)」5-7. 清水茂「峡駅」
7. 笈文生(編)「参考文献」7-8. 「編集部から」8.
- 『31 千一夜物語Ⅰ』 1964年6月 4. …………… ≡【81世古31】30。
渡辺一夫「『千夜一夜物語』」1-2. 牟田口義郎「ダマスカス随想」2-5. 三上次男「サ
ラセンの古都サマツラ: メソポタミア遊記」5-7. 篠田一士「『ミメジス』を読むた
めに(4)——シカーリウスとクラムネシンドゥース」8-11. 「訳者紹介」11. 「テク
スト・参考文献」11. 「千一夜物語について」12.
- 『32 千一夜物語Ⅱ』 1964年11月 9. …………… ≡【81世古32】31。
蒲生礼一「『千一夜物語』について」1-3. 飯塚浩二「『千夜一夜』を勉強する」3-5.
牟田口義郎「『千一夜』の詩に寄せて」5-8. 篠田一士「『ミメジス』を読むために(9)
——騎士は征く(一)」9-12.
- 『33 千一夜物語Ⅲ』 1966年1月 21. …………… ≡【81世古33】32。
岡部正孝「佐藤シャハラザード」1-3. 洪沢龍彦「アラジンのランプ」4-6. 嶋田
襄平「中世オリエントの歴史と文化」6-8. 高津春繁「西洋古典文献学(3): アレ
クサンドレイアの文献学 二」9-12.
- 『34 千一夜物語Ⅳ』 1970年3月 40 [月報刊記に第4巻と誤植]. …… ≡【81世古34】33。

- 植谷雄高「アラビアン・ナイトの勝利」1-3. J. L. ボルヘス / 土岐恒二(訳)「マルドリウス博士」3-7. 吉田光邦「アラビア世界の工芸品」7-10. 渡辺金一「南イタリアの聖者伝」10-12.
- 〔35 ダンテ〕 1964年7月 〔5〕. …… ≡ 【81世古35】 〔34〕. ≠ 【古世文28】 〔無〕.
花田清輝「ダンテの読みかた」1-3. 森田鉄郎「ルネサンスとダンテ」3-5. 摩寿意善郎「ボッティチェリの『神曲』挿絵」5-8. 篠田一士『『ミメジス』を読むために(5)——ローラン対ガスロン』8-11. 「テキスト・参考文献」11-12. 「訳者紹介」12. 「ダンテについて」12.
- 〔36A 禅家語録Ⅰ〕 1972年12月 〔46〔47〕〕. …… ≡ 【81世古36A】 〔35〕. ≠ 【古世文29】 〔無〕.
寺田透「眼蔵参究の傍」1-3. 紀野一義「唐代の禅僧たち」3-5. 尾崎雄二郎「資料はいつも孤独である」6-7. 「参考文献(中国禅一般, 達摩二入四行論, 六祖壇経, 頓悟要門, 黄檗伝心法要, 臨濟録, 趙州録)」8-9. 「訳者紹介」& 「編集部から」9. 荒井健「中国古典文学をめぐって(1): 七つの杜詩注」10-12.
- 〔36B 禅家語録Ⅱ〕 1974年2月 〔47〔48〕〕. …… ≡ 【81世古36B】 〔36〕. ≠ 【古世文30】 〔無〕.
福永光司「寒山詩と「白雲」」1-3. 梶山雄一「チベットの牧象図」3-5. 上田閑照「一円相」5-7. 「訳者紹介」7. 柳田聖山(編)「参考文献(寒山詩, 三祖信心銘, 永嘉証道歌, 参同契, 洞山宝鏡三昧, 洞上五位頌, 鴻山警策, 十牛図, 座禅儀, 碧巖録, 無門関)」7-8. 「編集部から」8. 「中国禅宗地図」別紙付録.
- 〔37 モンテーニュⅠ〕 1966年4月 〔24〕. …… ≡ 【81世古37】 〔37〕. ≠ 【古世文31】 〔無〕.
土居寛之「モンテーニュの思い出」1-2. 中村雄二郎「モンテーニュ是非」3-5. 原二郎「モンテーニュの城を訪ねて」5-7. 「モンテーニュ「エッセー」引用句集」8. 高津春繁「西洋古典文献学(6): 古典の復活 二」9-12. 「訳者紹介」& 「編集室から」12.
- 〔38 モンテーニュⅡ〕 1968年3月 〔35〕. …… ≡ 【81世古38】 〔38〕. ≠ 【古世文32】 〔無〕.
串田孫一「猫・独楽・葦」1-3. 山崎庸一郎「『自己を描くこと』と『自己をつくること』」3-5. 松浪信三郎「モンテーニュと現代思想」5-7. 「テキスト・参考文献」7. 「モンテーニュ「エッセー」引用句集」8. 清水茂「中国目録学(7): 蔵書家のすがた」9-12. 「編集部から」12.
- 〔39 セルバンテスⅠ〕 1965年2月 〔12〕. …… ≡ 【81世古39】 〔39〕.
白石凡「サンチョ・クラブ」13. 保坂栄一「セルバンテスの時代」3-6. 瀬田栄之助「ウナムーノ『ドン・キホーテとサンチョの生涯』」6-8. 篠田一士『『ミメジス』を

- 読むために(12)——アダムとエヴァ (二)』8-11. 「セルバンテス引用句集 (『ドン・キホーテ前篇』より)」12. 「訳者紹介」12.
- 『40 セルバンテスⅡ』 1965年3月 13. …… ≡ [81 世古 40] 40.
三浦朱門「セルバンテスの家」1-3. 神吉敬三「ドン・キホーテとその挿絵」3-6.
瀬田栄之助「ウナムーノ『ドン・キホーテとサンチョの生涯』(つづき)」6-8. 篠田
一士「『ミメジス』を読むために(13)——アダムとエヴァ (三)」8-10. 「参考文献」
10. 「セルバンテス引用句集 (『ドン・キホーテ後篇』より)」11-12.
- 『41 シェイクスピアⅠ』 1964年4月 2. …… ≡ [81 世古 41] 41.
福原麟太郎「シェイクスピア演習」1-2. 小田島雄志「シェイクスピアの劇場と舞台」
3-5. 河竹登志夫「日本近世劇とシェイクスピア」5-7. 篠田一士「『ミメジス』を読
むために(2)——「フォルトゥナータ」」7-10. 「訳者紹介」10. 「シェイクスピア
引用句集」11. 「テキスト・参考文献」12.
- 『42 シェイクスピアⅡ』 1964年12月 10. …… ≡ [81 世古 42] 42.
千田是也「シェイクスピア演出雑感」1-2. 中村秀勝「エリザベス時代のイングラン
ド」2-5. 小津二郎「国際シェイクスピア学会」5-7. 篠田一士「『ミメジス』を読む
ために(10)——「騎士は征く(二)」」7-10. 「訳者紹介」10. 「シェイクスピア引用
句集」11-12.
- 『43 シェイクスピアⅢ』 1966年11月 30. …… ≡ [81 世古 43] 43.
吉田健一「歴史と史劇」1-3. 中野里皓史なかのり・こうし「シェイクスピアの出発」3-5. 玉泉八州
男「ニュークリティシズムのシェイクスピア批評」5-7. 「シェイクスピア引用句集」
8-9. 「訳者紹介」9. 清水茂「中国目録学(2): 目録のはじまり」10-12.
- 『44 シェイクスピアⅣ』 1967年5月 32. …… ≡ [81 世古 44] 44.
成田成寿「シェイクスピアの男」1-3. 大山俊一「王立シェイクスピア劇団: イア
ン・ホームとデイヴィッド・ウォーナーを見る」3-5. 野島秀勝「シェイクスピアと
道化」5-8. 「訳者紹介」8. 「シェイクスピア引用句集」8-9. 清水茂「中国目録学
(4): 分類の変遷」10-12. 「編集部から」12.
- 『45 シェイクスピアⅤ』 1966年2月 22. …… ≡ [81 世古 45] 45.
西脇順三郎「シェイクスピアの芸術」1-5. 大山敏子「シェイクスピアの言葉」5-7.
「シェイクスピア引用句集」8. 高津春繁「西洋古典文献学(4): ローマの文献学」

9-12. 「訳者紹介」& 「おことわり」 12.⁹

- 『46 シェイクスピアVI』 1966年4月 23. …… ≡【81世古46】46.
羽仁進「『オセロ』の城を見て」1-3. 外山滋比古「行書の演劇：シェイクスピア後期の作品」3-5. 野崎韶夫^{よしお}「ロシアにおけるシェイクスピア」5-7. 「シェイクスピア引用句集」8-9. 高津春繁「西洋古典文献学（5）：古代世界の崩壊」10-12. 「訳者紹介」12.
- 『47 モリエール』 1965年4月 14. …… ≡【81世古47】47. ≠【古世文33】無.
飯沢匡「日本人の笑とモリエール」1-3. 小場瀬卓三「時代の鏡としてのモリエール」3-6. 安堂信也「恨みつらみ」6-8. 篠田一士「『ミメジス』を読むために(14)——ファリナータとカヴァルカンテ」8-10. 「テキスト・参考文献」11. 「モリエール引用句集」11-12. 「訳者紹介」12.
- 『48 ラシーヌ』 1965年12月 20. …… ≡【81世古48】50. ≠【古世文34】無.
川口篤「フランス人とラシーヌ」1-2. 朝比奈誼^{よしみ}「ジャンセニズムとラシーヌ」2-5. 小佐井伸二「鏡の中のような…：あるいは cruel Racine」5-7. 「コメディ・フランセーズによるラシーヌ作品の上演回数（1680-1964）[表]」7. 高津春繁「西洋古典文献学（2）：アレクサンドレイアの文献学一」7-10. 朝比奈誼（編）「テキスト・参考文献」10. 「訳者紹介」11. 「ラシーヌ引用句集」11-12.
- 『49 ルソー』 1966年10月 28. …… ≡【81世古49】48. ≠【古世文35】無.
河野健二「『告白』の遺跡散歩」1-2. 安土正夫「『告白』の系譜：モンテーニュ、ルソー、スタンダール」3-5. 根岸国孝「啓蒙哲学とルソー」5-8. 「参考文献」8. 高津春繁「西洋古典文献学（10）：古典の北漸 二」9-12. 「訳者紹介」12.
- 『50 ゲーテ』 1964年10月 8. …… ≡【81世古50】49.
山下肇「トゥーレの王」1-3. 谷友幸「ゲーテの月の歌」3-5. 高安国也[世]「ゲーテの格言詩」5-7. 篠田一士「『ミメジス』を読むために(8)——ローランとガヌロン（その四）」7-10. 大山定一（編）「テキスト・参考文献」11-12. 「訳者紹介」12. 「ゲーテのことは（格言集より）」12.

（ここまで2020年6月脱稿，以下次号）

⁹ 予告されていた『46 パスカル』は『46 シェイクスピアVI』に改められ、「将来，世界古典文学全集の第二集を刊行す時にまた収録する…」とあるので，増巻が構想されていたかもしれない。